

松山市立さくら小学校

自らの健康について主体的に考え、
よりよく解決していこうとする子どもの育成
～歯・口の健康づくりを通して～



I 研究推進計画

1 教育目標 「夢膨らまし 命煌めかせ」

—自分の目標をもち、それを達成するために一生懸命に努力する子どもの育成—

2 研究主題

自らの健康について主体的に考え、よりよく解決していこうとする子どもの育成
～歯・口の健康づくりを通して～

3 研究主題について

(1) 主題設定の理由

現在、私たちを取り巻く社会は急激に変化しており、子どもたちの家庭環境や生活習慣は多様なものになってきている。そのため、これからの社会をたくましく生き抜くためには、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」が必要となる。その中でも、「命」を支える心と体の大切さを再認識し、自分の命だけでなく他者の命も守り、大切にしていこうとする力を身に付けさせることは、子どもたちが生涯にわたって豊かな生活を営むためにも喫緊の課題である。

本校では「夢膨らまし 命煌めかせ」を教育目標とし、豊かに関わり合いながら主体的に学ぶ教育活動を展開している。子どもたちの多くは、明るく活発で、自分の目標をもち、それを達成するために、一生懸命、努力しながら成長している。コロナ禍により十分な活動内容が確保できてはいないが、縦割り班活動など、異年齢集団での交流を通して、発達段階に応じた人との関わり方を身に付け、支持的風土の中で自己肯定感や自己有用感を高めつつある。また、令和2年度から3年間の「松山市口腔内疾患対策研究モデル校」の指定を受けていることを踏まえ、健康教育に関する継続した取組の基礎をつくり、素地を培うことで、心身の発育・発達段階にある子どもが、生涯にわたって、自ら健康の保持増進をしていくことを願い、実践を重ねてきた。その結果、自分の歯に関心をもち、正しい歯みがきの仕方を見直すなど、子どもも保護者も少しずつ自分の健康や安全に関しての意識が高まってきている。しかし、実生活における課題について主体的に考えたり、自ら解決していこうとしたりする力は、まだ十分とは言えない。

2年間の取組により高まってきた健康づくりへの意識を大切にしながら、課題解決に努め、「子ども自身が主体的に考え、よりよく解決していこうとする」ことができるように教育活動の在り方を探り、研究を深めたいと考え、本研究主題を継続して掲げることとした。

(2) 主題設定の趣旨

我が国は、世界に冠たる長寿国であり、生涯にわたってセルフコントロールを可能とする「健康寿命」の延伸が強く求められている。しかし、現在、生活習慣病をはじめとし、長期にわたる不適切な生活習慣が原因となる病気が国民病として大きな課題となっている。このような生活習慣病の素地は学齢期の頃から始まると言われており、学校における適切な学習や指導による健康観の育成と健康行動の確立が、生涯にわたる健康づくりのためにも極めて重要である。

しかし、一般に健康そのものに対する興味や認識が低い子どもに、病気の実態が見えない生活習慣を理解させることは容易ではない。その点、鏡を見ることによって体の状態や変化を直接的に観察することができる歯や口の学習は、日々の生活の中で「自分の体は、自分で気を付けて大切にすれば応えてくれる」という極めて重要な実感を与えてくれるため、子どもにとって適切な学習教材となりうる。また、歯や口の健康づくりは、生活習慣病の学習教材として適しているばかりでなく、

①鏡を見れば自ら観察できる対象であること、②歯が生え変わったり萌出したりすることを容易に実体験することができ、生命への畏敬の表出や興味・関心がもちやすいこと、③知識・理解が容易であること、④行動した結果が自己評価しやすいこと、⑤話題の共通性に富んでいること、など、幅広い年代の子どもに、系統性をもって指導していく上でも大変有効な健康教育教材である。生涯にわたる健康づくりの基礎を培うために、こうした歯・口の健康づくりを研究の中心に据え、主体的に考え、自ら課題を解決していく力を身に付けさせることにより、本校の教育目標の実現に迫りたい。そして、学校・家庭・関係諸機関が連携しつつ、子どもを主役とし、豊かな人間性を育む教育活動を展開していきたい。

4 研究の目標

歯・口の健康の保持増進を中心とした健康教育を推進することで、自らの健康について主体的に考え、判断し、行動し、よりよく課題を解決する子どもを育成する。

5 目指す子どもの姿

- 自らの健康に関心を持ち、主体的に考え、判断し、課題を解決するために行動しようとする子ども
- 望ましい生活習慣を理解し、自分の健康を保つために必要な態度や習慣を身に付ける子ども

【本校で身に付けさせたい重点目標】

低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・第一大臼歯のむし歯予防と管理（第一大臼歯をきれいにみがける） ・食後の歯・口の清掃の習慣化（自ら取り組む） ・好き嫌いをなく、よくかんで食べることの大切さを知る。【食】
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・上顎前歯や第一大臼歯のむし歯予防と管理（犬歯、小臼歯をきれいにみがける） ・自分に合った歯・口の清掃の工夫 ・かむことと健康とのつながりを理解し、よくかんで食べる習慣を身に付ける。【食】
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・歯周病の原因とその予防方法の理解と実践（自らの意思で継続してみがける） ・歯・口の健康的な生活習慣づくりの確立（自ら、継続して取り組む） ・正しい食生活や生活習慣の大切さを知り、実践する。【食】

6 研究の仮説

- 歯・口の健康づくりに関する実態を把握するとともに、家庭への啓発、関係諸機関との効果的な連携を図れば、自らの健康について関心を持ち、正しく理解していこうとする子どもが育つであろう。
- 歯・口の健康づくりに関する年間指導計画を基に、身に付けたい力を明確にした授業を展開すれば、正しい知識を得て、自らの健康課題を見付け、よりよく解決する方法を工夫・実践しようとする子どもが育つであろう。
- 歯・口の健康づくりに関する環境の充実を図れば、自らの健康について主体的に考え、判断し、生涯にわたって自らの健康の保持増進をしていこうとする子どもが育つであろう。

7 研究の内容

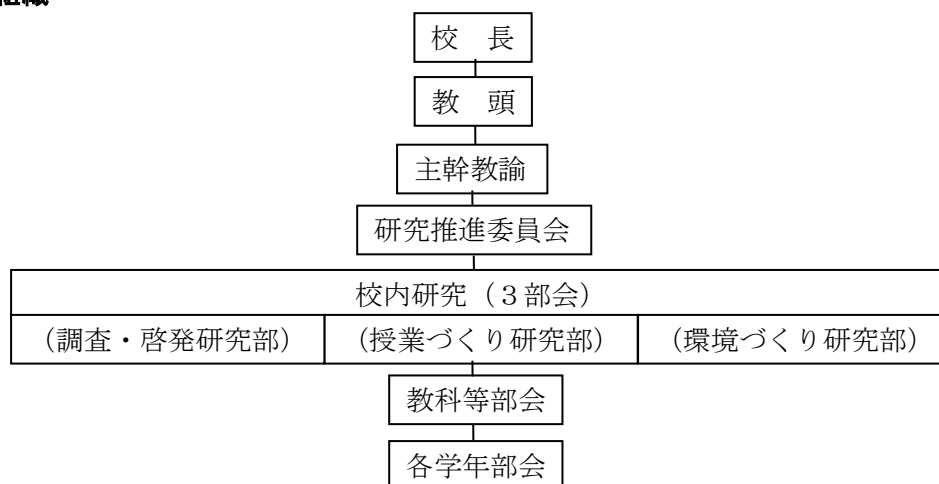
- 調査・啓発研究部
 - ・ 家庭・地域への啓発と、インタラクティブな関わり
 - ・ 学校保健委員会の充実と関係諸機関との連携
 - ・ 歯・口の健康に関する実態調査の実施と分析

- 授業づくり研究部
 - ・ 歯・口に関する年間指導計画の見直しと授業実践
 - ・ 保健学習、保健指導に関する授業展開の研究
- 環境づくり研究部
 - ・ 委員会活動、集会活動の活性化
 - ・ 掲示、放送による環境整備
 - ・ 健康ファイル等、健康教育資料の開発と蓄積

8 研究推進計画

主な取組	
一 年 次	実態把握・研究体制の確立・研究の方向付け <ul style="list-style-type: none"> ○ 歯・口の健康に関する実態調査と分析 ○ 年間指導計画の作成 ○ 授業研究と実践、教材や教具の整備 ○ 保健環境の整備、児童会活動の充実 ○ 家庭への啓発活動や、関係諸機関との連携の工夫 ○ 1年次の研究のまとめと今後の課題の検討
二 年 次	研究実践の充実 <ul style="list-style-type: none"> ○ 年間指導計画の見直しと作成 ○ 授業研究と実践、理論研究 ○ 保健環境の整備、児童会活動の充実 ○ 家庭への啓発活動や、関係諸機関との連携の充実 ○ 2年次の研究のまとめと今後の課題の検討
三 年 次	研究実践の充実とまとめ <ul style="list-style-type: none"> ○ 年間指導計画の見直しと作成 ○ 授業研究と実践、理論研究 ○ 家庭への啓発活動や、関係諸機関との連携の充実 ○ 歯・口の健康に関する実態調査と分析 ○ 3年次の研究のまとめと今後の課題の検討

9 研究の組織



II 研究実践（調査・啓発研究部）

1 調査・啓発研究部の取組

(1) 研究実践の内容

① 歯・口の健康に関する各学年の実態調査と分析

歯・口の健康に関する意識・習慣等の実態を把握し、授業の学習課題の設定、指導方法の工夫などに生かすとともに、研究実践3年を経ての変容を捉えることを目的とする。本年度は、一昨年度、昨年度に実施したものと同一内容のアンケート調査を全校児童と保護者、教職員を対象に実施し、過年度に実施した実態調査と研究深化後の実態とを比較・分析することで、研究実践3年を経ての歯・口の健康に関する意識・習慣等の変容を捉える。また、保護者アンケートには、歯・口の健康づくりに対して自由記述欄を設け、保護者や児童の意識や態度の変化の実際をより具体的に調査することができようにする。

【アンケートの項目（児童用）】

- 歯をみがくのはすきですか。
- 学校に行く日の朝歯みがきをしていますか。
- 学校に行く日のおやつの後、歯みがきをしていますか。
- 学校に行く日の夜、歯みがきをしていますか。
- 休みの日の朝、歯みがきをしていますか。
- 休みの日の昼、歯みがきをしていますか。
- 休みの日のおやつの後、歯みがきをしていますか。
- 休みの日の夜、歯みがきをしていますか。
- どうして歯をみがくのですか。
- 歯みがきをしないときがある人にききます。しないことがあるのは、どうしてですか。
- 歯みがきをするときに気をつけていることはありますか。
- 今、むし歯がありますか。
- むし歯にならないために気をつけていることは、歯みがき以外で、どんなことですか。

【アンケートの項目（保護者用）】

- お子さんは1日のいつ、歯みがきをしますか。また、1日何回しますか。（月～金曜日の登校日）
- お子さんは1日のいつ、歯みがきをしますか。また、1日何回しますか。（土、日曜日の休日）
- 歯みがきをするときにお子さんにどんなことに気を付けさせていますか。
- お子さんには、今、むし歯がありますか。
- お子さんの歯みがきの後、仕上げみがきをしていますか。
- むし歯にならないためにお子さんに気を付けていることは、歯みがき以外でどんなことですか。
- 歯・口のことで悩みや疑問があればご記入ください。
- 歯・口の健康づくりのために、ご家庭で工夫していることがあればご記入ください。
- 学校での取組を通して、ご家庭やお子様の歯みがきや歯の健康に対する意識の変化など、お気づきのことがありましたらご記入ください。

【アンケートの項目（教職員用）】

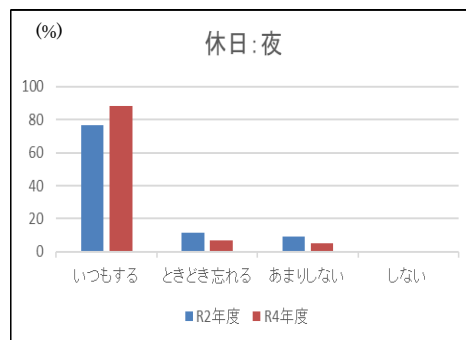
- 給食後、児童は歯をみがく習慣が身に付いていますか。
- 給食後の歯みがきのときに指導をしていることはどんなことですか。
- 児童の歯・口の健康づくりにおける課題はどんなことだと思いますか、ご記入ください。
- 歯・口の健康づくりのためにクラスで工夫していること、特に指導していることがあればご記入ください。

(2) 6年生児童と保護者の比較・分析と変容

① 児童の3年間の比較・分析と変容

「朝歯みがきをしない・あまりしない」と答えた児童が平日・休日ともに減少した。休日の昼の歯みがきは、「あまりしない」児童が減り、「いつもする」児童が増えた。夜の歯みがきはほとんどの児童が「いつもする」と答えており、歯みがきの習慣が確立してきていると考えられる（図1）。

「歯みがきをしないのはなぜか」についての質問では、「つい忘れる」と答えた児童が大幅に減少した。歯ッ
ピー週間や歯みがき指導で、歯みがきの意識が高まっ

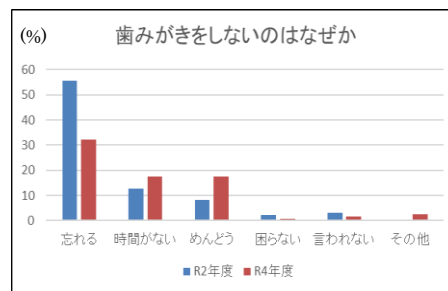


（図1：休みの日の夜に歯みがきをしているか）

たと言えるだろう。しかし、「時間がない」「めんどろ」といった意見が増え、習慣化したとまでは言い切れない現状がある

(図2)。

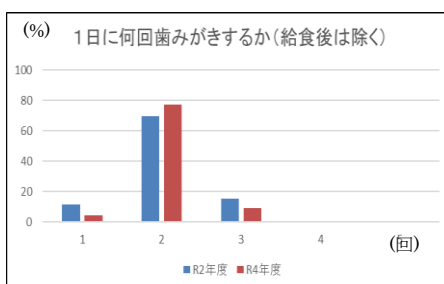
仕上げみがきをしている児童は減少した。6年生になって仕上げみがきに抵抗を感じている児童が増えたのではないだろうか。むし歯の有無については、あると答えた児童が大幅に減った。「歯と口の健康づくりの学習を通して心に残っていることや分かったこと」についての質問では、「歯肉炎などの予防には生活リズムを整えることも大切と分かった。」「歯ブラシの毛先なども注意していく必要がある。」などの意見があり、歯と口の健康に対する知識が定着してきた様子が見られた。



(図2：歯みがきをしないと答えた児童の理由)

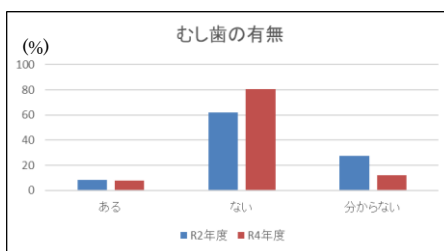
② 保護者の3年間の比較・分析と変容

「歯みがきをする回数」についての質問では、2回と答えている家庭が多い。令和2年度と比較すると、2回と答えている家庭が増えた。「歯医者で習ったようにみがく。」「ながら歯みがきをしない。」などの意見も見られた(図3)。



(図3：1日何回歯みがきをするか)

「むし歯の有無」の質問では、むし歯があるか分からないと答えた人が減り、むし歯がないと回答した人が大幅に増えた。むし歯予防に努めることやむし歯の有無に関心を持つ家庭が増えたことが考えられる(図4)。



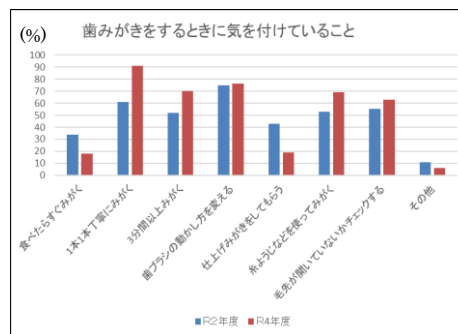
(図4：むし歯の有無)

自由記述欄に保護者の方からいただいた意見には、「歯みがきに対する意識が高まっているのが分かり、とてもよい影響を与えてくれている。」「歯みがき指導のおかげで家での意識が変わった。トリプルAを目指して頑張っている。」「時々歯みがきの仕方など、学校で習ったことを教えてくれるようになった。」「ハッピー週間『今日はこれに気を付ける!』などと言って取り組んでいた。そのような機会を増やしてほしい。」などが見られ、3年間の歯・口の健康についての取組の成果があったと考えられる。

(3) 5年生児童と保護者の比較・分析と変容

① 児童の3年間の比較・分析と変容

「歯みがきをするときに気を付けていること」についての質問では、多くの項目で意識の高まりを感じられる。特に、「1本1本丁寧にみがく」の項目が大きく向上している。これまでの学習が児童の行動を変容させたことが分かる。回答の項目の中にもある「糸ようじなどを使ってみがく」については、昨年度と今年度の2年間の授業の中で取り扱ったこともあるためか、気を付けている児童の割合が大きくなっている。児童の意見の中にも、「デンタルフロスや糸ようじを使うことで、もっと細かいところまでみがけることが分かった。」ということもあった(図5)。



(図5：歯みがきをするときに気を付けていること)

学校のある日、休日ともに「歯みがきをいつもする」と答えた児童の割合が増えている。歯みがき巡回指導や歯ッピー週間などの取組で、児童の意識が高まってき

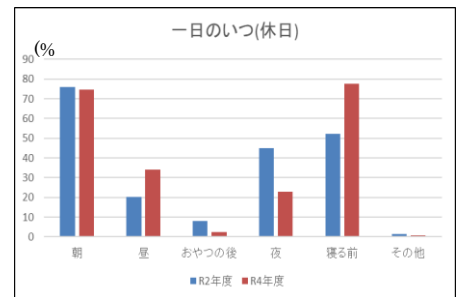
たことがうかがえる。しかし、「歯をみがくのは好きですか」の質問には、「どちらでもない」の回答の割合が大きくなっていることから、今後も児童に適切な指導をし続ける必要があることが分かる（図6）。

② 保護者の3年間の比較・分析と変容

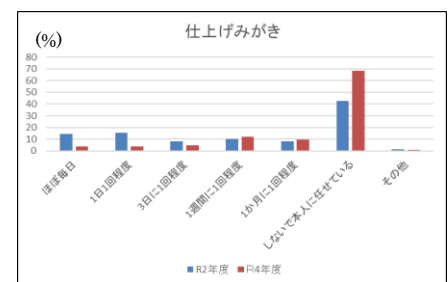
平日、休日ともに朝の歯みがきに対する意識が高いのは変わらないが、寝る前の歯みがきに対する意識が高まっていることがよく分かる。また、休日の昼も歯みがきをするように呼び掛けるようになっており、児童への指導や地道な啓発活動が実を結んでいる様子が分かる（図7）。

仕上げみがきについては、児童が3年生の時よりも本人に任せていると答えた割合が大きくなっている。児童の年齢が上がるにつれ、家庭も児童本人も仕上げみがきに対する抵抗感が大きくなっているようである

（図8）。保護者の中には、「定期的に歯科医に行くようにしている。」と記述してくださった方もいる。学校の取組で歯・口の健康に関する意識が高まってきたのは間違いない。



(図7：休みの日のいつ歯みがきをしているか)



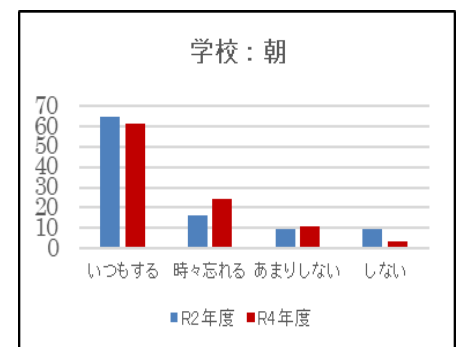
(図8：仕上げみがきをしているか)

(4) 4年生児童と保護者の比較・分析と変容

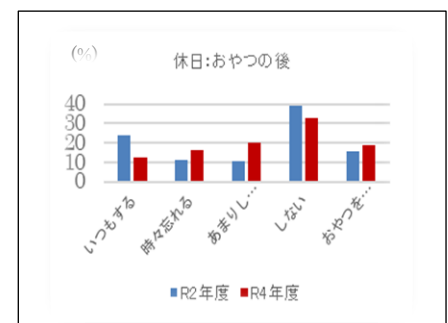
① 児童の3年間の比較・分析と変容

「歯みがきをいつもする・ときどきわすれる」と答えた児童の割合は、学校に行く日の朝、夜、休みの日の夜は、やや増加している。しかし、「いつもする」と答えた児童の割合はすべて減少している。歯みがきの重要性を理解し実践している様子はうかがえるものの、歯みがきの大切さを十分理解していないことも考えられる。

実際に児童のアンケートにも、「朝晩にみがいているから、1回ぐらいしなくても。」「ゲームや遊びに夢中になっていてしなかった。」という意見もあり、歯みがきに対する意識が十分でない様子が見られた（図9）。また、「おやつの後」の歯みがきは、学校に行く日、休みの日ともに減少傾向が見られる。この結果からも、食事の後の歯みがきが定着しているとは言い難い。しかし、児童の意見からは、「おやつを食べる時間を決めている。」「スナック菓子を食べるのを控えている。」というものがあつた。歯みがきだけでなく、食生活の面からも歯を大切にしようとする児童が育っていることも感じられる（図10）。



(図9：学校の日の朝に歯みがきをしているか)



(図10：休みの日のおやつ後に歯みがきをしているか)

児童の2年間の学習の成果として、「正しい歯みがきの仕方」に関する記述や「よく噛んで

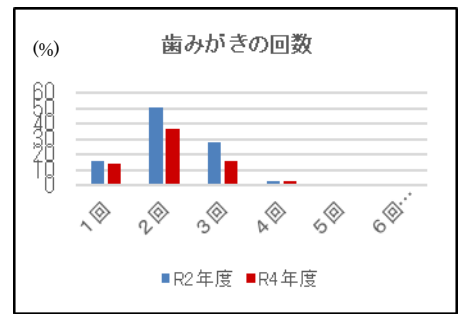
食べること」「かたいものを食べると唾液がよく出ること」などの記述が見られ、歯・口の健康に対する知識が定着

している様子が見られた。

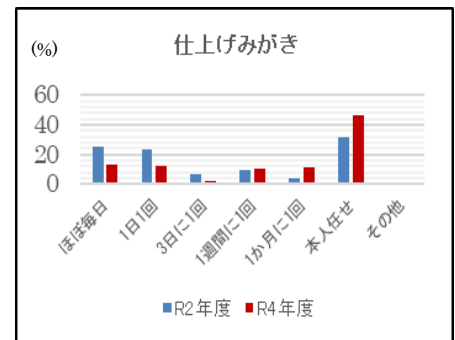
② 保護者の3年間の比較・分析と変容

歯みがきをする回数については、令和2年度と比較すると、1回と回答している家庭が減少し、2回と答えている家庭が増えた(図11)。「鏡を見てみがく」「舌でざらざらしていないか確認する」などの意見も見られた。

むし歯にならないために気を付けていることについては、「歯科検診を定期的に受けている。」という意見もあり、保護者の意識も高まっていることが考えられる。その一方で、4年生になると仕上げみがきが少なくなっている様子が見られる(図12)。



(図11: 歯みがきをしている回数)



(図12: 仕上げみがきをしているか)

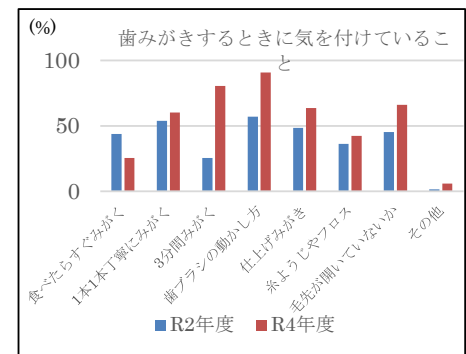
(5) 3年生児童と保護者の比較・分析と変容

① 児童の3年間の比較・分析と変容

「歯みがきをするか」という質問では、「しない」と答えた児童が減少している。夜の歯みがきにおいては、しない児童が前回より減少して1人になっている。しかし、減少しているとはいえ、休日の朝や昼はまだまだ実際みがいていない児童は2割程度居るのが現状である。

「歯をみがくときに気を付けて実践していること」という質問では、「歯の場所によって歯ブラシの動かし方を変えてみがく」ことを実践している児童が最も多く、実施率は90%という結果だった。前回と比べても約35ポイントアップしている。自分に合った歯のみがき方を考える授業実践の成果であると言えるであろう。

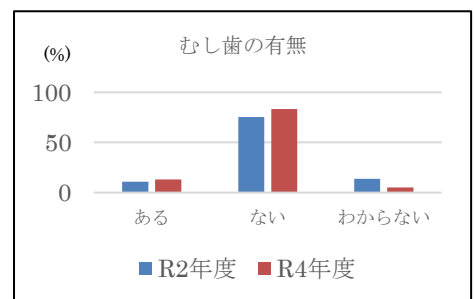
それに続いて高かったのは「3分間みがく」が80%で、前回より55%もアップしている。また、「仕上げみがきをしてもらっている」は63%で、「歯ブラシの毛先が開いていないかをチェックする」の実践も高く66%だった。「食べたらずぐみがく」の児童は2割台にとどまっているが、前回と比べて、様々な項目でポイントアップが見られ、歯・口の健康のケアの方法をよく理解し、意識が高まっていると考えられる(図13)。



(図13: 歯みがきをするときに気を付けていること)

② 保護者の3年間の比較・分析と変容

「むし歯あるかどうか」という質問で「ない」と答えた人は88%と高い。「わからない」と答えた人は前回より8ポイントも減少している(図14)。「歯みがき以外で気を付けていること」の質問で、「定期的に歯科医で診てもらっている」と答えた人が6割もいることが分かった。歯科医院での定期チェックを受ける人が増えており、むし歯や歯周病への予防意識が高まっている。

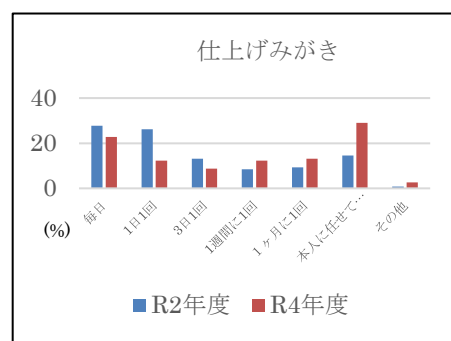


(図14: むし歯の有無)

しかし、そのためか、毎日の歯や口の健康のケアのための仕上げみがきについては、ほぼ3人に1人が本人に任せているという結果だった。逆に、仕上げみがきをしている児童は全体

の68%で、児童の認識とほぼ一致している。一見多そうだが、内容については「1週間に1回」または、「1か月に1回」など、仕上げみがきの回数を減らしている人が増えた。このことから、全体的にむし歯や歯周病への予防意識が高まっているが、歯と口腔の健康ケアの習慣化は低下したと考えられる(図15)。

自由記述には、「自分で進んでみがくようになった。」「習ったみがき方でみがいている。」などの意見が多く、児童が成長したことに安心しているのではないだろうか。児童の自主性が育ち、みがき方が上達しているのは事実だが、生え変わりのみがきにくいこの時期の仕上げみがきは必須であることを、もっと呼び掛ける必要があるだろう。



(図15: 仕上げみがきをしているか)

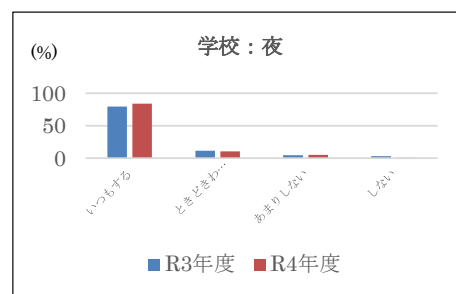
(6) 2年生児童と保護者の比較・分析と変容

① 児童の2年間の比較・分析と変容

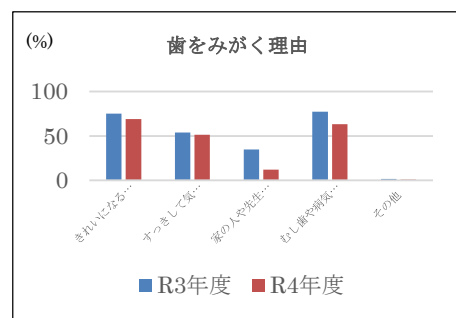
平日、休日ともに朝の歯みがきに変容は見られなかったが、夜の歯みがきをいつもすると答えた児童が増えている(図16)。「どうして歯をみがくのか」という設問に対し、1年生の時は「家の人や先生に言われるから」(回答番号3)と回答した児童が35%であったのに対し2年生では12%とかなり減っている(図17)。歯みがきをしないときがある人に聞いた設問でも、「家の人に言われなからしない」という児童の減少が見られた。

このことから、家の人に言われる、言われなから関係なく、歯みがきをすることは、自分のためと捉えている児童が増えたことが分かる。また、自由記述では、「歯にくっつきやすいものとくっつきにくい食べ物がある。」「歯みがきをしないとむし歯になる。歯みがきの大切さが分かった。」

「うまく歯みがきをする方法が分かった。」などと回答した児童が多く、学習したことが心に残っていることが分かる。



(図16: 学校に行く日の夜に歯みがきをしているか)

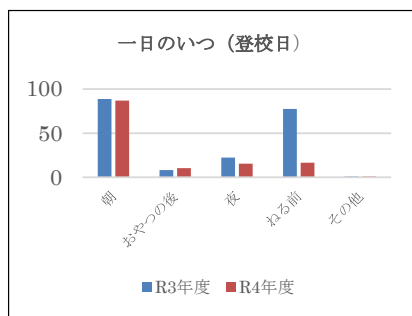


(図17: 歯をみがく理由)

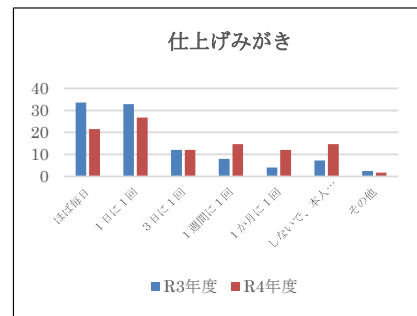
② 保護者の2年間の比較・分析と変容

「お子さんは一日のいつ歯みがきをしますか。」という設問では、全ての設問で歯みがきをする割合が低くなっている(図18)。

「仕上げみがきをしていますか。」という設問でも、「しないで本人に



(図18: 登校日のいつ歯みがきをしている)



(図19: 仕上げみがきをしているか)

任せている」という設問の割合が高くなっている。この結果から、2年生になり保護者が児

童に任せ始めたことが分かる(図 19)。しかし、まだまだ見届けや仕上げみがきは必要であり、今後も引き続き、保護者への啓発をしていかなければならない。

自由記述では、下記のような学校での授業の取組に対する好意的な意見が多く寄せられた。今後も、授業で取り組んでいくことで、学校と家庭との連携が図られると考える。

- 家ではあまり歯の教育ができていなかったと思うので、学校全体で取り組んでいただき、ありがたいと思います。染め出しでどこに汚れが残っているか、どんなおやつを取り方がむし歯になりやすいか等、子どもたちが学んできたことを家で教えてくれます。また、おやつを食べる際にも何を食べればむし歯になりやすいかなど、考える姿を見ると学校で取り組んでいただいた成果を感じます。
- 学校でたくさんの取組をしていただき、子ども自身で歯を大切にしないと！という意識が高まっているように感じました。家族の歯ブラシもチェックして、そろそろ替える時期だよと教えてくれたり、鏡で歯をチェックする姿をよく見掛けたり、大変ありがたいなと思いました。

(7) 1年生児童と保護者の実態調査

① 1年生の児童の実態

平日の歯みがきの状況と休日の歯みがきの状況を比較すると、毎日歯みがきをしている児童は、朝(平日 64%休日 55%)、おやつの後(平日 33%休日 29%)、夜(平日 80%休日 83%)と、あまり変化はない。登校日の朝の歯みがきの方が9%高く、休日の夜の歯みがきは休日の方が3%高い。夜の歯みがきは、平日休日共に80%を越え、多くの児童が夜の歯みがきは定着していると考えている(図 20)。「歯みがきをするときに気を付けていること」では、「家の人に仕上げみがきをしてもらう」が61%と一番数値が高いが、1年生という年齢にしては低い(図 21)。

2学期に行った学級活動「第一大臼歯をみがこう」の授業で、仕上げみがきの大切さに触れること

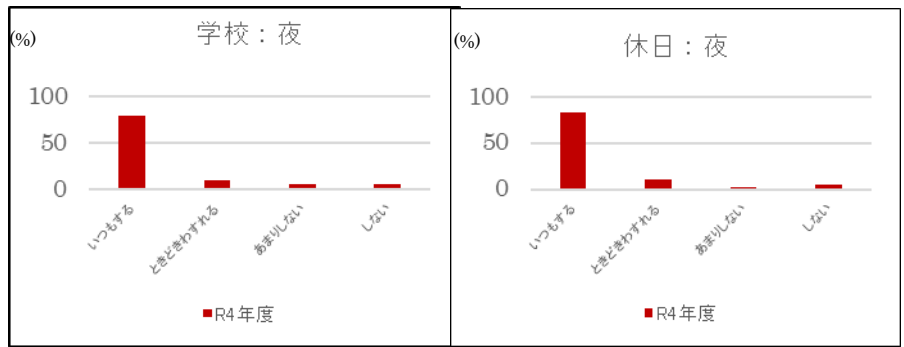
で、児童の意識が高まり、その後の家庭での仕上げみがき実施状況はよくなっている。また、学級活動「やさいともだち」の授業で、野菜が歯に付着しにくいことを学習すると、よく噛んで食べようと意識する児童が増えてきている。

② 保護者の実態

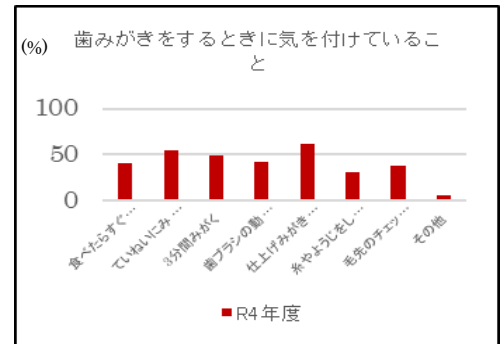
歯みがきをする回数については、2回と答えている家庭が多い(平日 73%、休日 47%)。仕上げみがきに関しては、毎日仕上げみがきをしている家庭は、75%である(図 22)。歯みがき以外で気を付けていることは、「定期的に歯科医に行く」が74%と高い。

歯・口の健康づくりのために工夫していることは、「おやつに固いものを出す、よくかんで食べる」「フッ素洗口や歯科医によるフッ素塗布」「歯みがきアプリなどを利用して楽しくみがく」のような回答があり、各家庭で様々な工夫しているようだ。

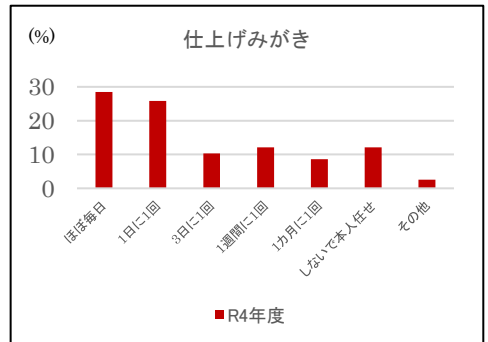
自由記述欄には、「歯みがき判定を受けることで、積極的に歯みがきに取り組むようになった」「学校で教えて



(図 20: 学校に行く日と休日の夜に歯みがきをしているか)



(図 21: 歯みがきをするときに気を付けていること)



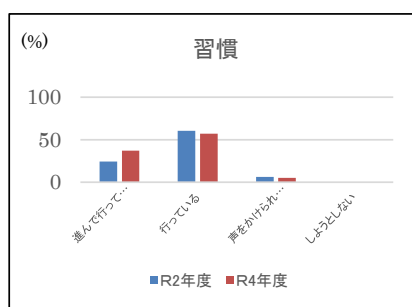
(図 22: 仕上げみがきをしているか)

もらったみがき方を注意しながら実践しようとしている。」「丁寧にみがくようになった。自分で歯ブラシの状態をチェックするようになった。」「歯みがき週間の時は、特に念入りに歯みがきをしている。」のような保護者からの意見が寄せられ、学校の取組により家庭での児童の様子により変化が見られた。

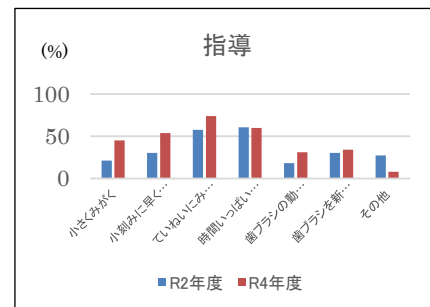
(8) 教職員の比較・分析と変容

研究を進める中で、教職員自身の意識の高まりがみられ、それが指導に活かされてきた。授業を通して指導したことを中心に日々細かく言葉掛けをすることで、児童も知識が高まり、意識して歯みがきをする児童が増えてきている(図23)。コロナ禍で、どのように研究を進めていくか、いろいろ試行錯誤してきたが、各学年の研究授業を通して、工夫できることがたくさんあることに気付き、指導につながったと思われる(図24)。

教師自身が、自分自身の歯みがきを見直す機会となり、「児童と一緒に染め出しをしてみたら児童が『先生よりきれいにみがきたい。』という思いをもって歯みがきに取り組んでくれてよかった。」という声も聞かれた。ただ、家庭による格差が広がっており、家庭の協力を得ることが難しいという点が課題である。



(図 23:給食後歯をみがく習慣が身についているか)



(図 24:給食後の歯みがきのときに指導していること)

2 学校保健委員会の開催

7月に学校保健委員会を開催した。養護教諭から今年度の歯科検診結果や歯みがき判定結果について説明した後、学校歯科医の大膳達国先生と松山市教育委員会の歯科衛生士・竹田美由紀先生より歯と口の健康について話をいただいた(資料1)。事前に保護者から出された質問にも丁寧に答えていただき、家庭との連携につながった(資料2)。



(資料1: 学校歯科医の講話の様子)



(資料2: 保護者から出された質問に模型を使って回答している様子)

【参加された保護者からの感想】

- ・口の中が健康でなければ身体が健康でいられないことを家族に伝えたい。
- ・糖分の量よりだらだらと食べる方がむし歯になりやすいと分かったのでこれから気を付けたい。
- ・フッ素入り歯みがき剤を使うととても効果があると分かったので、これからフッ素入りをしたい。
- ・子どもの歯を守るのは親なので、しっかり仕上げみがきをしたい。
- ・むし歯のリスクを下げるため、これからおやつやの量や回数を親子で考えていこうと思う。

3 「ほけんだより」の発行

今年度も、毎月発行している「ほけんだより」の中に「歯ッピーコーナー」を引き続き設けている（資料3）。このコーナーでは、歯と口の健康に関する内容を取り上げ、児童や保護者の歯に対する意識を高めるとともに、歯みがきへの意欲を高めることにつながった。

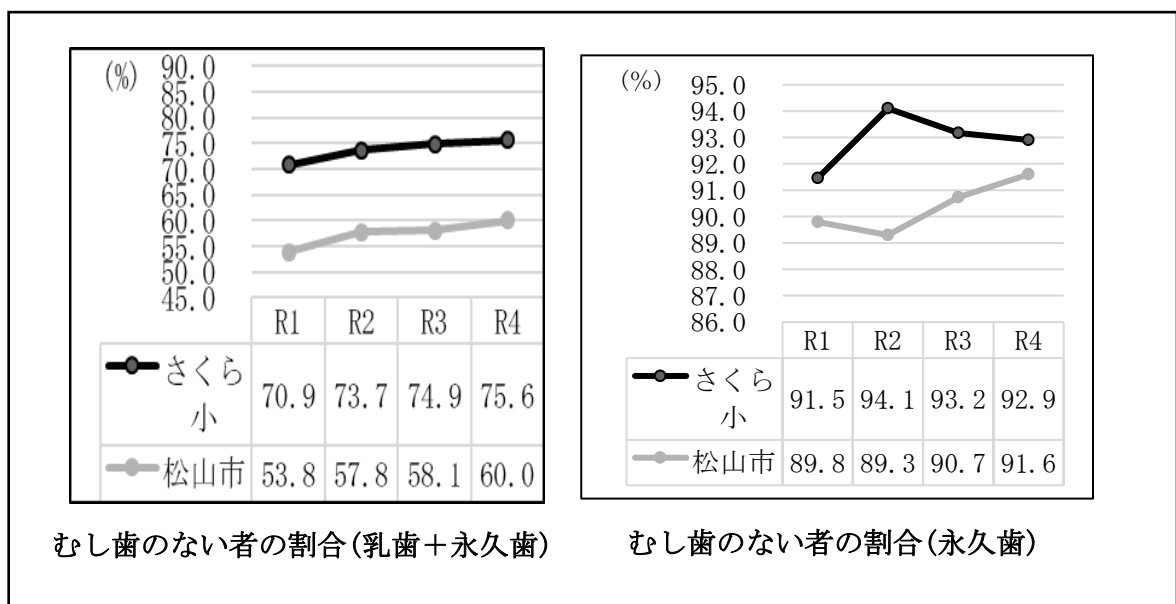
【「歯ッピーコーナー」の内容】	
4月	モデル校最終年度のお知らせ
5月	歯科検診について
6月	歯と口の健康週間について 歯の役割とかむことの大切さについて
7月	歯みがき巡回指導の様子 1回目歯みがき判定結果について
9月	2回目歯みがき判定のお知らせ
10月	2回目歯みがき判定結果について
11月	3年生と4年生の研究授業の様子について
12月	5年生の研究授業の様子と口の健康で気を付けていることの紹介

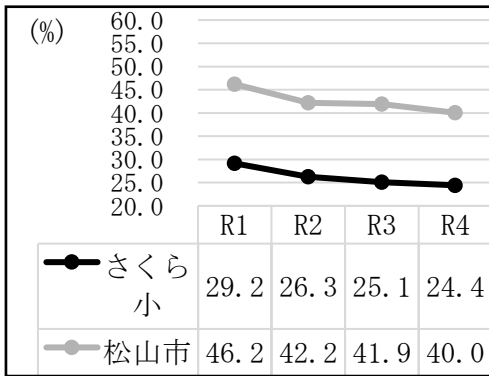


(資料3：11月の歯ッピーコーナー)

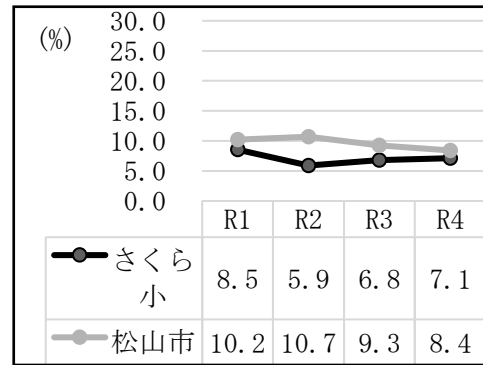
4 歯科検診結果の推移(令和元年度～令和4年度)

歯科検診の結果の推移を考察すると、むし歯のある児童は、松山市と比較すると少なく、令和元年度以降、年々減少傾向にある。また、一人あたりのむし歯数も松山市より低い。むし歯のない児童は、松山市と比較すると多く、令和元年度以降、年々増加傾向にある。歯肉の状態は、市と平均すると悪い。歯科健診の際、歯垢が付着している児童は少なく、90%以上の児童はきれいという判定であった。毎日の継続した歯みがきができているために歯肉炎になりかけている児童が多いのではないと思われる。これらのことから、むし歯は少ないが、歯肉に問題のある児童が多いことが本校の課題であるといえる。高学年の研究授業で歯肉炎や歯周病の予防についてこの3年間指導してきたが、今後も引き続き指導していく必要がある（図25）。

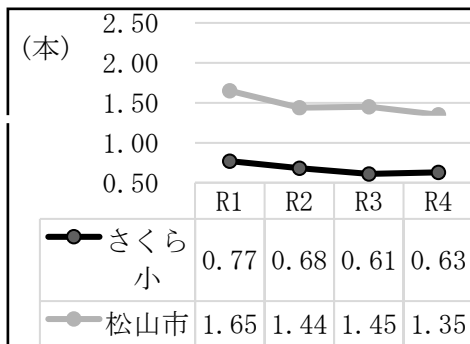




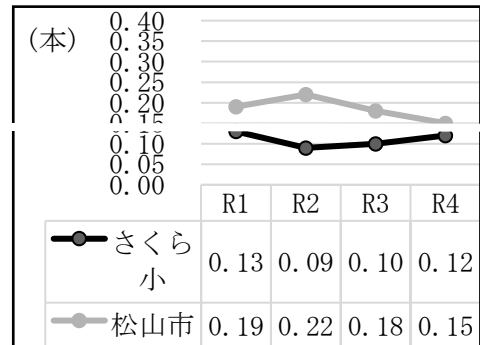
むし歯のない者の割合(乳歯+永久歯)



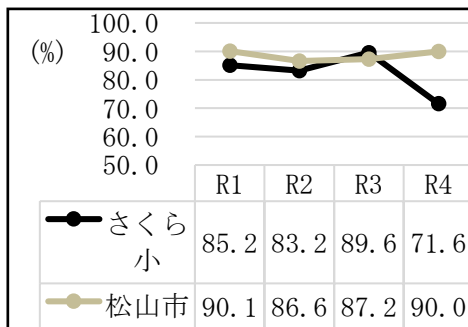
むし歯のない者の割合(永久歯)



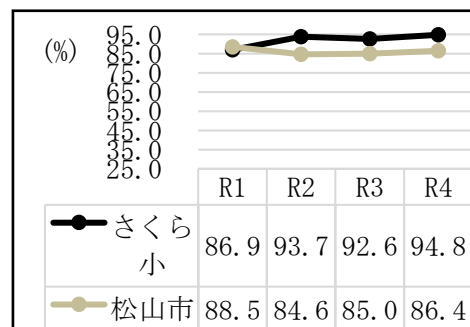
一人あたり平均むし歯数
(乳歯+永久歯)



一人あたり平均むし歯数
(永久歯)



歯肉の状態 (異常なし)



歯垢(きれい)

(図 25 : 歯科健診結果の推移)

5 「歯ッピー週間」(歯・口の健康づくり強調週間)の設定

昨年度に引き続き、今年度も「歯ッピー週間」(歯・口の健康づくり強調週間)を全学年に実施される歯みがき巡回指導前の1週間や各学年部で実践する歯・口の健康づくりに関する授業研究の前後に設けた。学年によって「歯ッピー週間」の期間は異なるが、期間中は「さくらっ子歯ッピーカード」を児童に配布し、歯みがき巡回指導を意識させた目当てをもたせて取り組ませた(資料4)。そうすることで、歯みがき巡回指導の歯みがき判定や授業での学習内容を強く意識しながら取り組んでいるようであった。また、「さくらっ子歯ッピーカード」は家庭に持ち帰らせ、家庭でも記入した後、保護者にコメントを

(資料4 : さくらっ子歯ッピーカード)

もらってから提出させた。回収後は「さくら歯ファイル」に入れ、累積し、保護者のよいコメント（学級で1、2名）、学校の取組への意見・感想があれば全員分、調査・啓発部員が中心になり、データベースへ保存した。保護者が記したコメントには、「歯ッピーカードがあると、目当てを決めてきちんとやろうとするので、良い取組だと思います。」「子どもにとっても親にとっても、意識が高まりそうだと思います。」「『歯ッピーカードをかかなくちゃ!』と言って、いつも以上にやる気になり、がんばってみがいていました。」などがあり、「歯ッピー週間」を設けて「さくらっ子歯ッピーカード」を活用することより、子どもや保護者の歯・口の健康づくりに対する意欲や意識の向上につながっていたことが分かる。また、寄せられたコメントを「歯・口の健康だより」に載せることで、家庭への啓発となり、学校だけでなく家庭においても歯・口の健康づくりについて考えるよい機会となっていた。

6 「歯・口の健康だより」の発行

保護者とのインタラクティブな関わりを更に意図して「歯・口の健康だより」を発行した。学校での歯・口の健康づくりの推進状況を知らせることに加えて、保護者の「歯ッピーカード」に記されたコメント等を紹介したり、「歯・口の健康だより」を読んだ感想や学校の歯・口の健康づくりに対する質問などを募集する欄を設けたりするなど工夫して紙面を構成した（資料5）。すると保護者からは、「児童の成長発達に応じた取組がされているととても感じます。歯だけでなく、歯茎も大事にケアする必要性を学べているので、この様な取組にとても感謝しています。」「『歯・口の健康だより』では、学年ごとに丁寧に注意点を記載していただき、学校の状況も分かりとても勉強になります。」などのコメントが寄せられた。「歯・口の健康だより」を発行することで、学校から家庭への啓発となるだけでなく、保護者とのインタラクティブな関わりをしながら学校と家庭とが連携をすることで、保護者の意識や児童との関わりに良好な変容が見ることができた。



（資料5：歯・口の健康だより）

No.	時期	内 容	工 夫
1	5月	歯・口の健康づくりの取組について 歯・口の健康づくりの本校オリジナル キャラクターの紹介 「歯ッピー週間」について	
2	7月	歯みがき巡回指導について	・「歯ッピーカード」の保護者コメント紹介 ・保護者の感想・質問募集欄
3	7月	学校保健委員会について 夏休み中の歯・口の健康づくりへの啓 発	・学校保健委員会に参加した保護者の感想
4	9月	2年部と6年部の授業実施報告 歯みがき巡回指導	・「歯ッピーカード」の保護者コメント紹介 ・保護者の感想・質問募集欄
5	11月	3年部と4年部の授業実践報告	・「アンケート調査」の保護者コメント紹介 ・保護者の感想・質問募集欄
6	1月	1年部と5年部の授業実践報告	・「歯・口の健康だより」の保護者コメント紹介
7	2月（予定）	今年度を振り返って	

II 研究実践（授業づくり研究部）

1 歯と口に関する学習の充実

昨年度、一昨年度と、歯と口に関する学習の充実を図るために、学級活動の年間指導計画に歯みがきに関する指導と食育に関する指導の位置付け、授業実践を行った。そこで本年度は、過去2年間の授業実践を踏まえ、各学年で取り組むべき内容を見直して授業研究を行った。歯みがきを中心とした口腔内指導と合わせて、食育に関する学習もさらに見直しをし、より子どもの実態に合わせた授業実践を行うことができた。

歯と口に関する学習の年間指導計画（学級活動）

学年	歯みがきに関する指導			食育に関する指導		
	題材名	ねらい	主な学習内容	題材名	ねらい	主な学習内容
1	むしばたいじ (R2年度全校研) 第一大臼歯をみがこう (全校研)	第一大臼歯について理解し、むし歯を予防するための方法を身に付ける。	第一大臼歯の役割を知る。 歯ブラシの動かし方や使い方を試す。 第一大臼歯をきれいにみがくことができるか確かめる。	やさいとともだち (R3年度低学年研)	野菜に触れ、野菜をすりつぶす活動で手ごたえを感じることで、野菜への関心を高める。	野菜を噛むとどうなるかの疑似体験をする。 歯にとっての野菜のよさについて話し合う。 野菜を食べるときのめあてを決める。
2	前ばのみがき方を考えよう (R3年度全校研)	前歯のみがき方を知り、実践しようとする。	前歯をきれいにみがく方法を考えて発表する。 歯ブラシの使い方や前歯のみがき方について理解する。 歯のみがき方のめあてを決める。	大切な歯 (R2年度低学年研) (全校研)	むし歯になりにくいおやつとり方を理解し、歯の健康を考えておやつを選んだり食べ方を改善したりしようとする。	おやつに含まれる砂糖の量を知る。 むし歯になりにくいおやつとり方について話し合う。 自分のめあてや実践方法を決める。
3	どんなみがき方がいいのか (R3年度中学年研) (全校研)	自分の歯を観察し、歯並びに合った歯ブラシの当て方やみがき方を身に付ける。	自分の歯並びを観察する。 萌出直後の永久歯の特徴を知る。 自分の歯並びに合った歯のみがき方を身に付ける。	よくかんで食べよう (R2年度全校研)	噛むことのよさを理解し、進んでよく噛んで食べようとする態度を育てる。	よく噛むときと噛まないときの違いを見つける。 よく噛むことのよさを考える。 自分のめあてを決める。
4	歯みがき名人になろう (R2年度中学年研) (全校研)	むし歯をゼロにするために、それぞれの歯の形に合った正しいみがき方を身に付けようとする。	自分の口腔内の様子を観察する。 それぞれの歯の形に合ったみがき方を考え、話し合う。 自分のめあてを決める。	おやつとり方を考えよう (R3年度全校研)	むし歯になりにくいおやつとり方を知り、おやつとり方を工夫しようとする。	おやつ記録を見て、改善点を話し合う。 おやつ絵カードを使って、おやつを選ぶ。 おやつとり方のめあてを決める。
5	歯肉炎予防大作戦 (R2年度高学年研) (全校研)	歯肉炎の原因について知り、歯肉炎予防のために自分にできることを考えて実践し、習慣化しようとする。	歯肉炎にどのようなようになるのかを知る。 歯肉炎にならない歯みがきの仕方を知る。 歯肉炎予防大作戦を考える。	食事を見直そう (R3年度全校研)	かむことのよさを理解し、サラダ作り計画を通して、よくかんで食事をしようとする意欲を高める。	かむための手立てについて考える。 よくかむためのサラダのアイデアを考え、グループで紹介し合う。 実践に向けた目標を立てる。
6	歯周病予防大作戦 (R3年度高学年研) (全校研)	歯周病予防のための歯みがきの仕方を理解したり、生活習慣を見直したりして、自分の立てためあてを実践、習慣化しようとする。	歯周病の仕組みを理解する。 自分の課題を「グッバイ！歯周病チャート」にまとめ、できることを考える。 歯周病予防大作戦を考える。	自分の生活を見つめよう (R2年度全校研)	健康な歯や口と生活習慣のつながりを理解し、健康な歯を保つための目標を立てる。	健康な歯を保つための方法を知る。 生活の課題を見つけ、改善点を考える。 行動目標を立てる。
さくら	歯みがき名人になろう (R2年度学年研)	正しいみがき方に気を付けて歯をみがこうとする。	歯みがきとむし歯の関係を確認する。 きれいに歯をみがくための方法を身に付ける。 練習したみがき方に注意しながら自分の歯をみがく。	かんで元気に (R3年度学年研)	噛むことのよさを理解し、よくかんで食事をしようとする態度を育てる。	「かむ」とはどんな口の動きになるのかを感じる。 リンゴを用いて、かむ練習をする。 かむことについて、養護教諭の話聞く。

<第1学年の取組>

1 題材 「第一大臼歯をみがこう」

(2) 一ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

2 目標 第一大臼歯について理解し、むし歯を予防するための方法を身に付ける。

3 展開

	児童の活動	指導上の留意点		資料	◎目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
		T1	T2		
導入 つかむ	1 チョコレートが付いた歯をどのようにみがいたらよいか考える。 2 第一大臼歯のみがきにくさと大切さを知る。	<ul style="list-style-type: none"> 歯ッピーちゃんの奥歯に付いたチョコレートをどのようにみがくとよいか、問題提起をする。 自分の歯の中で、第一大臼歯がどこにあるか気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 第一大臼歯は、一番奥に生えていてみがきにくい、大切な歯であることに気付かせる。 	奥歯にチョコレートがついた模型 第一大臼歯の写真(タブレット)	
展開 さぐる 見つける	3 第一大臼歯の特徴を知る。 4 第一大臼歯のみがき方を3人で話し合う。 5 正しい歯みがきの方法を理解する。	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">はこの おうさまを まもろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 第一大臼歯は、むし歯になりやすい理由を知り、きちんとみがくことの必要感を高めさせる。 歯の模型を使うことで、具体的によりよい方法を見付けることができるようにする。 話合いで出たポイントをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> かみ合わせ面の溝の形が複雑なことや、生えそろうまでの高さが低いので溝に食べかすや歯垢がたまりやすいことに気付かせる。 机間巡視を行い、歯ブラシの使い方や歯ブラシの動かし方を意識させる。 歯ブラシのつま先を使ったり、斜め横から突っ込んでみがいたりすることに気付かせる。 	(教師用) 歯の模型 (児童用) 歯の模型 歯ブラシ	◎ 友達との話合いに進んで参加している。 【思考・判断・表現】 〈観察、発言〉

	6 鏡を見て、自分の歯をみがく。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯みがきのポイントを意識してみがいているか机間巡視をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯みがきのポイントを意識してみがいている子どもを称揚する。 	歯ブラシ 手鏡	<p>◎ 正しいみがき方を理解している。</p> <p>【知識・技能】 〈観察、発言〉</p>
終末 決める	7 歯の王様を守るために頑張ることを書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習を振り返り、自分のめあてをワークシートに書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仕上げみがきの大切さにも気付かせる。 	ワークシート	<p>◎ 第一大臼歯を大切にしていこうという思いをもとうとしている。</p> <p>【主体的態度】 (発言、ワークシート)</p>

4 実践の概要

(1) 課題意識をもたせる工夫

導入で、「歯ッピーちゃん」のぬいぐるみを提示し、奥歯に付いたチョコレートがきれいにならなくて困っていることを知らせ、第一大臼歯について意識付けをした。(資料1) この歯は、「歯の王様」と呼ばれる大切な歯であることを知らせ、「はのおうさまをまもろう」というめあてのもと、グループごとに歯の模型を使って歯みがきの仕方を話し合わせた。



【資料1 歯ッピーちゃん】

(2) 課題解決に向けた教材や教具、活動の工夫

自分の第一大臼歯がどこにあるかに気付かせるために、タブレットを使った。自分の歯を大きく撮影させた後、教師が第一大臼歯に印を付けた写真を送信した。また、グループの話合いのときには、3人に一つの模型を準備し、歯をどのようにみがいたらよいか具体的に考えさせた。(資料2) 養護教諭が全体に説明するときには、大きな歯の模型を用意して、子どもたちがよく見えて分かりやすいように工夫した。



(3) 養護教諭との連携

養護教諭は、歯の専門的な知識を生かして、第一大臼歯の説明をした。大きくて力が強く、歯並びの基準になる大切な歯であるが、むし歯になりやすいことを簡潔に話した。(資料3) また、歯みがきのポイントは、小さく速くみがき、歯ブラシのつま先を使うことや、きちんと歯をみがいたつもりでも、みがき残しがあるので、家の人の仕上げみがきも大切であることも話し、児童の実践意欲を高めた。



【資料3 養護教諭の話】

5 成果 (○) と課題 (●)

- タブレットを用いて自分の第一大臼歯を確かめたり、子どもたちがグループ活動をするときには小さな歯の模型を使い、養護教諭が説明するときには大きな歯の模型を使ったりするなど、教材や教具を上手に使うことができた。
- 養護教諭の専門性を生かし、学級担任と連携を取りながら授業を進めることができたので、本時のねらいをスムーズに達成することができた。

- グループで歯の模型を使って話し合うときに、あまり活発な発言が見られなかった。話し合いの前に、歯ブラシの使い方や歯ブラシの動かし方を考えるようにというポイントを言うておけばよかったのではないかな。

＜第2学年の取組＞

- 1 題 材 「大切な歯」(2)ーウ
- 2 ねらい むし歯になりにくいおやつのとりに方を理解し、歯の健康を考えておやつを選んだり食べ方を改善したりしようとする。
- 3 展 開

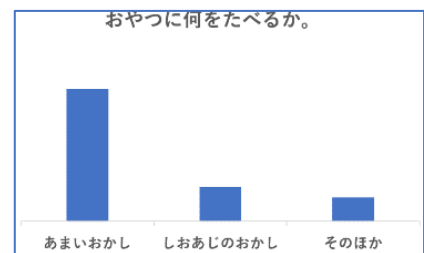
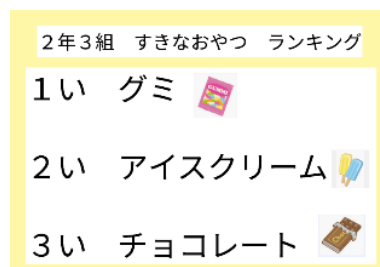
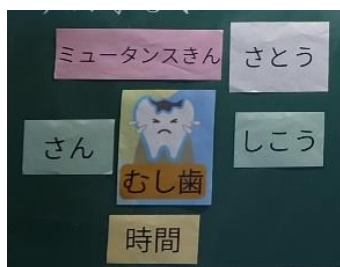
	児童の活動	指導上の留意点	資料	◎目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
導入 つかむ	1 おやつのとりに方のアンケート結果を基に学習問題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・題材名を確認し、大切な歯を守るための学習であることを確認する。 ・むし歯のでき方が分かる板書資料を提示することで、むし歯になる仕組みを理解できるようにする。 ・アンケート結果を提示することで、おやつを選び方や食べ方について課題意識をもたせる。 	むし歯の仕組みを説明するイラスト アンケート結果	
	むし歯になりにくいおやつのとりに方を考えよう。			
展開 さぐる	2 むし歯になりやすいおやつか、なりにくいおやつかを考える。 (班→全体)	<ul style="list-style-type: none"> ・共有ノートを活用した話し合いをすることで、一人一人が主体的に考え、自分の意見を伝えられるようにする。 ・班で話し合ったことを全体で発表することで、砂糖の量の多い少ない、口の中に残る時間など、分類した根拠を共有できるようにする。 	タブレット端末	◎ 話し合いを通じて、主体的に課題解決に取り組んでいる。 【主体的態度】〈観察〉
見付ける	3 おやつに含まれる砂糖の量について確かめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・おやつに含まれる砂糖の量を示すことで、むし歯になりやすいかどうか、自分たちの分類と照らし合わせて考えられるようにする。 	砂糖の量を示す具体物	
	4 おやつを食べ方について確かめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・おやつの回数や時間についての資料を提示することで、おやつのとりに方は選び方だけではなく、食べ方も大切であると理解できるようにする。 	おやつの食べ方を示した資料	

終末 決める	5 自分の実践できるおやつのとりのためあてを考える。	・おやつの選び方や食べ方の視点を確認することで、自分で実践できるためあてを考えられるようにする。	ワークシート	◎ むし歯になりにくいおやつのとりの方を理解している。 【知識・技能】 ◎ 自分の実践できるためあてを考えている。 【思考・判断・表現】 〈ワークシート〉
-----------	----------------------------	--	--------	---

4 実践の概要

(1) 課題意識をもたせる工夫

導入で、むし歯の仕組みの確認と好きなおやつのアンケート結果や、生え変わり時期の歯並びの資料など、複数の資料を提示して、課題意識をもつことができるようにした。(資料3) まず、むし歯の仕組みを復習する中で、砂糖と歯が汚れている時間がむし歯になる大きなポイントであることを押さえた。次におやつのアンケート結果から、学級全体で甘い食べ物を好む傾向があることを理解させた。砂糖がむし歯の大きな原因になるため、このままでは、むし歯になる危険が高いことを自覚させることができた。さらに歯並びの写真から、生え変わりの時期に、歯磨きだけで歯を守ることは難しいと気づき、歯磨き以外の歯を守る方法へと意識を向けさせることができた。導入で、大切な歯を守るためにはどうすればよいかという課題意識をしっかりともたせたことで、自分事として話し合い活動に臨むことができた。



【資料3 導入で提示した資料】

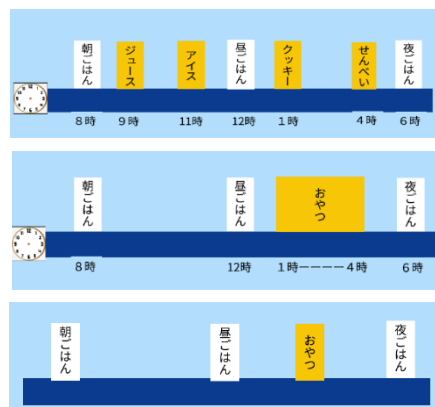
(2) 課題解決に向けた活動の工夫

課題解決に向けて、授業の展開で3つの活動を行った。1つ目は、ロイロノートを活用した話し合い活動である。(資料4) ロイロノートの共有ノートを活用して、おやつのカードを「むし歯になりやすい」「むし歯になりにくい」「どちらともいえない」の3つに分類した。各班で、それぞれが考えを出し合いながら分類表を作成した。導入で確認したむし歯になるポイントや自分が食べたときの経験を思い出しながら話し合うことができた。「チョコレートやキャラメルのように甘くて歯にくっつくものはむし歯になりやすい。」「甘くてもアイスクリームやゼリーのように口の中ですぐ溶

けるものは、なりやすいとまではいけない。」など、各班で考えた根拠を伝え合いながら全体で共有していった。2つ目は、お菓子やジュースに含まれる砂糖の量の確認である。スティックシュガー何本分かを実物で提示することで、含まれる砂糖の量を実感を伴って理解することができた。3つ目は、図を使っておやつの望ましい食べ方を考える活動である。(資料5) 教師の休日のおやつの食べ方を図にすることで、回数や食べる時間などを意識し、何回も食べたり、だらだら食べたりすることはむし歯につながるのだから良くないことに気付くことができた。これらの活動を展開することで、自分事として主体的に課題解決に取り組むことができるようにした。



【資料4 共有ノートを活用した話し合い】



【資料5 おやつの食べ方を考えさせる図】

5 成果 (○) と課題 (●)

- アンケート結果や歯並びの写真を提示することで、一人ひとりが課題意識をしっかりともち、自分事として授業に臨むことができた。
- 共有ノートを活用して話し合い活動を行うことで、自分の考えがすぐに班の中で反映されるので、一人ひとりが主体的に話し合いをすることができた。
- 実物のお菓子や砂糖など、具体物を提示して説明することで、実感を伴った理解につなげることができた。
- おやつのとり方を選び方、食べ方の二つの視点に整理して考えさせたことで、自分に合った実践可能なめあてを立てることができた。
- 授業を通して、おやつのとり方と歯の健康との関わりについてしっかりと考えることができたが、その意識を持続させていく手立てが更に必要である。

<第3学年の取組>

- 1 題材名 「どんなみがき方がいいのか」
学級活動(2)ーウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
- 2 ねらい 自分の歯ならびに合った歯みがきの仕方を知り、自分の立てためあてを実践、習慣化しようとする。

3 展 開

	児童の活動	指導上の留意点		資料	目指す児童の姿と評価方法
		T 1	T 2		
導入 つかむ	1 アンケートの結果や歯垢の染め出しの結果を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 歯ッピーカードを見ると、以前より歯みがきをしようという気持ちが高まっていることを知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 歯みがきはできているが、染め出しの結果からみがき残しがある児童が多いことを気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 歯ッピーカードの結果 染め出しの結果 AAA 児童の学年別グラフ 	
展開 さぐる 見つける	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">めあて「みがき残しのないみがき方はどんなみがき方だろう」</p> <p>2 みがき残しの原因について考える。</p> <p>3 歯の模型を使い、歯垢を落とすみがき方を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の歯に合ったみがき方ができていないことに気付かせる。 みがき残しのある歯がたくさんある場合も、課題を一つに絞り、その歯についてみがき方を考えさせる。 課題の歯1本を染め出しし、どのようにすればきれいにみがけるかを考えながら、みがかせる。 同じ課題をもったグループごとに模型を使いながら、正しいみがき方について話し合わせ、考えをまとめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年生の歯の特徴について説明し、歯の生え変わる時期の歯並びについての知識を知らせる。 歯みがきするときのポイント「歯ブラシの当て方」「使う場所」「動かし方」を知らせ、考えるときのヒントとさせる。 グループの話合いの様子を見ながら、アドバイスをする。 歯ブラシの正しい使い方や各部位に合ったみがき方を理解させるため、動画を見せ、練習させる。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレット 	<p>◎友達と協力し合って自分の課題に合ったみがき方を考えている。</p> <p>【主体的態度】 〈観察〉</p>

終末 決める	4 本時の学習を振り返り、これからのめあてをもつ。	・自分に合っためあてを考えさせ、「3年生びかびか大作戦」のめあてを記入し、意欲化を図る。	・他のみがき残しのある歯についても、みがき方を考えて実践してみるように励ます。	・ワークシート	◎自分の歯みがきの課題に合った実践できるめあてを考えている。 【思・判・表】 〈ワークシート〉
-----------	---------------------------	--	---	---------	---

4 実践の概要

(1) 課題意識をもたせるための工夫

事前の授業では、歯に関するアンケートや歯の染め出しを行う中で、それぞれのみがき残しがある部分について理解させた。自分自身のみがけていない歯を知ること、課題をしっかりと持つことができた。また、授業の導入で日頃の歯みがきの様子と歯の染め出しの結果との乖離や3年生だけがAAA児童が少ないことを知らせることで、課題解決の必要性を確認することができた(資料1)。



【資料1 AAA児童の学年別グラフ】

(2) 具体的な解決策を探るための工夫

同じ課題を持ったグループを作り話し合わせたことは、それぞれの悩みや課題解決に向けた歯みがきのポイントを共有させることとなった。話し合いの際には、「歯ブラシの当て方」「使う場所」「動かし方」の考えるポイントを絞らせた。そうすることで、話し合いをスムーズに行わせるとともに具体的な課題解決に向けた糸口となった(資料2)。



【資料2 グループでの話し合い】

具体的な解決策を探る手立てとして、ロイロノートを活用し、それぞれの歯の課題に対応した歯のみがき方動画を視聴した。自分の課題に合った動画を視聴することで、グループで話し合った内容を振り返るとともに、正しいみがき方を理解することができた。実際に動画を見ながら歯みがきをすることで、実践を通して歯ブラシの使い方も理解できた(資料3)。



【資料3 養護教諭による歯みがき動画】

(3) 養護教諭との連携

本授業は、養護教諭をT2として授業を行った。3年生にみがき残しが多い原因や具体的な歯のみがき方等、専門性を生かして説明を行った。また、実際に歯の染め出しを行う際や課題の歯に応じた歯みがきの仕方を話し合う活動でも、児童にアドバイスをを行った。それぞれのグループの考えを発表する際には、発言に応じた的確な助言をすることで、児童の発言をサポートすることや聞き手の児童が理解しやすいような配慮をした(資料4)。



【資料4 T2としての養護教諭】

5 成果 (○) と課題 (●)

- 「歯の染め出し」「歯みがきをする」「模型を使つての話合い」という授業の流れが、スムーズで分かりやすかった。また、養護教諭の専門性を生かしたサポートにより、授業内容が幅広いものとなり、児童の理解も促進された。
- 一人一人に自分の課題があり、自分事として授業に取り組むことができていた。歯の染め出しについても、全体に行うのではなく、自分の課題の歯一本に対して行うことで、自分の課題に対してしっかりと考えることができた。
- 染め出し後の確認の時間や養護教諭による歯みがき動画を視聴した後の確認の時間を設けてもよかった。自分たちで考えた歯みがきの方法についても、間違つた認識をしている児童や養護教諭の動画だけでは理解が難しい児童に対する手立てを考える必要がある。
- 課題の歯を一本に絞り染め出しを行ったが、「どのような結果であつたか」「汚れていなかった児童もいるのではないか」「染め出しが本当に必要であつたか」「違う段階で染め出しをする方がよかつたのではないか」についての検討が必要である。

<第4学年の取組>

- 1 題材名 「歯みがき名人になろう」
学級活動(2)ーウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
- 2 ねらい 自分の歯の特徴を理解し、それぞれの歯の形に合ったみがき方を身に付けようとする。
- 3 展 開

	児童の活動	指導上留意点	資料	◎目指す児童の姿と評価方法
つかむ	1 アンケート結果と歯の染め出しの結果を基に、自分たちの普段の歯みがきの状態を知る。	・アンケート結果と歯の染め出しの結果から、意識してみがいているつもりでも、みがき残しがあるという自分たちの課題を確認することで、課題解決への必要感を高められるようにする。	・アンケート結果 (実態調査)	
	みがき残しをなくすために、どんなみがき方をすればよいのだろう			
/	2 歯の種類と働き、むし歯について、養護教諭の話聞く。	・それぞれの歯の形や働きを確認するとともに、健康な歯とむし歯の写真を比較し、むし歯の予防のための学習を自分事として捉えられるようにする。	・歯の種類と働きを説明する絵 ・むし歯になった歯の写真	◎ 歯の種類と働き、むし歯の問題について理解している。 【知識・技能】 (観察、発言)

さ ぐ る	<p>3 自分の歯と染め出しの結果の絵や写真を比較し、自分のみがけていない部分を押しさえる。</p> <p>4 みがき残しをなくすためのみがき方（歯ブラシの動かし方、当て方、向きなど）を考え、ワークシートに書く。（個人）</p> <p>5 歯の模型を使って、自分の歯のみがき方の説明をする。（グループ→全体）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の歯と染め出しをした写真を比較することで、自分の歯の課題を視覚的に捉えられるようにする。 歯ブラシを自分の歯に当てている様子を手鏡で確認することで、自分の歯に合ったみがき方を考える手立てとする。 歯の模型を操作しながら説明することで、具体的なみがき方を自分で確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ロイロノート（写真・ワークシート） 手鏡 歯ブラシ 手鏡 歯の模型 歯ブラシ（大型） 	<p>◎ 自分の歯の状態に合ったみがき方を意思決定している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>〈観察〉〈発言〉〈ワークシート〉</p>
見 つ け る 決 め る	<p>6 養護教諭によるみがき方のアドバイスを聞く。（全体）</p> <p>7 みがき残しをなくすために、今日からできる目標を立てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えたみがき方と比べながら聞くことで、自分の考えに自信をもたせ、自分の歯みがきの目標を具体的に決められるようにする。 本時の学習を振り返り、自分の課題や目標を歯ッピーカードに記入することで、自分に合った具体的な目標を立てられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 歯ッピーカード 	<p>◎ 自分の歯の状態や歯みがきの仕方を見直し、実践できる目標を考えている。</p> <p>【主体的態度】</p> <p>〈観察〉〈歯ッピーカード〉</p>

4 実践の概要

(1) 課題意識を持たせるための工夫

授業の導入で、事前アンケートの結果を見せ、歯みがき巡回指導の結果を提示した。適切な歯のみがき方についての知識はあるが、実際にはきちんとみがけていないという課題に気付かせ、本時のめあてにつなげることができた。その後、養護教諭が歯の種類とそれぞれの役割、むし歯の恐ろしさという視点で話をした。その際、自分の切歯、犬歯、臼歯を手鏡で観察することで、今の自分の歯の状態や歯の種類によるみがきにくさの違いなどを確認することができた。（資料1）また、むし歯の実際の写真を提示することで、むし歯の恐ろしさと「むし歯にならないようにしたい」という課題解決に向けて意識を持たせることができた（資料2）。



【資料1 歯の観察の様子】



【資料2 虫歯の写真の提示】

(2) 具体的な解決策を持たせるための工夫

歯の染め出しの記録や自分の歯の様子をロイロノートで撮影した写真を比較し、自分の歯に合ったみがき方を考える活動を行った。ロイロノートで個別のワークシートを作成したことで、児童が自分の歯の課題を捉え、考えをまとめたり、伝え合ったりする活動に自信を持って取り組むことができた。(資料3) また、自分のみがき残しのあった部分を写真で確認させたり、歯ブラシを歯に当ててみがき方を考えさせたりすることで、児童は、自分の歯みがきの課題を自分事として捉え、みがき残しの原因を主体的に考えることができた。自分が考えたみがき方をグループで伝え合う場面では、模型を使って自分のみがき方を説明することで、視覚的に分かりやすく伝えることができた。(資料4) 友達と自分のみがき方の相違点を意識しながらアドバイスをし合うことで、みがき残しをなくすための様々な解決策を見付けることができた。さらに、全体での発表や養護教諭による振り返りの場面では、大きな歯の模型を使用し、児童が考えたみがき方について、養護教諭の専門的な知識を生かした説明や助言を行うことで、それぞれの歯の種類に合った適切なみがき方を共有し、効果的なみがき方への理解を深めることができた(資料5)。



【資料3 ロイロノートの活用】
(ワークシート)



【資料4 グループでの伝え合い】



【資料5 模型を使用して説明】

(3) 実践につなげる工夫

話し合ったことや養護教諭の話に基づき、みがき残しをなくすための目標を歯ッピーカードに書かせた。一人ひとりが授業を通して自分の歯みがきの課題や歯みがきのポイントについて理解し、「臼歯の溝は毛先をきちんと当ててみがく」「犬歯と歯茎の間は横みがきで歯ブラシを小さく速く動かしてみがく」など、具体的な目標を立てることができた。その後、自分の立てた目標を意識して歯みがきができたのかを歯ッピーカードで一週間チェックし、事後の持続的な実践につなげた。保護者からも、「授業の後、いつもより丁寧に歯みがきをしていた」「これからも家庭でも見守っていきたい」などのコメントもあり、家庭への啓発につなげることができた。

5 成果 (○) と課題 (●)

- 養護教諭が歯の種類やむし歯についての話をしたり、机間指導や助言を行ったりしたことで、適切な歯のみがき方についての考えや知識を深めることができた。
- アンケートの結果や歯の染め出しの結果を提示することで、一人ひとりが課題意識を持ち、自分事として授業に臨むことができた。
- 歯ブラシの「動かし方」「向き」「使う場所」「力加減」などのみがき方のポイントを事前に確認したことで、自分のみがき方の目標を具体的に定めることができた(資料6)。
- 歯の模型の活用は、口の中の構造や適切な歯ブラシの使い方を可視化でき、自分の歯のみがき方の課題を考えたり、伝え合ったりする際に効果的であった。



【資料6 提示資料(板書)】

- ロイロノートで個別のワークシートを使用したことで、スムーズに活動に取り組むことができた児童も多かったが、タイピングの苦手な児童も数名いたので、児童の実態に合ったワークシートの使い方を考えていく必要がある。
- 授業を通して、自分の歯みがきの課題や、適切な方法で歯みがきを行う大切さなどについてしっかりと考えることができたが、その意識を持続させていく手立てや保護者への啓発がさらに必要である。

<第5学年の取組>

- 1 題材名 「歯肉炎予防大作戦」
学級活動(2)ーウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
- 2 ねらい 歯肉炎の原因について知り、歯肉炎予防のために自分にできることを考えて実践し、習慣化しようとする。
- 3 展開

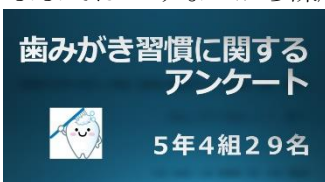
	児童の活動	指導上の留意点		資料	◎目指す児童の姿 【観点】(評価方法)
		T1	T2		
導入 つかむ	1 自分たちの歯みがきの様子や歯・口の健康状態を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートや歯みがき巡回指導の結果をグラフ化して示すことで、学級の実態を視覚的に分かりやすく知らせる。 ・GOがある児童の割合を示したグラフを提示し、課題を解決したいという気持ちを高めさせる。 		アンケートや歯みがき巡回指導の結果 歯垢の動画 GOがある児童の割合を示したグラフ	
展開 さぐる	2 歯肉炎について知る。	歯肉炎にならないようにするには、どうしたらいいだろう。		歯肉炎に関する資料	
			<ul style="list-style-type: none"> ・歯肉炎は、みがき残しが原因であると説明し、歯みがきへの意欲付けを図る。 		

見つける	3 自分の歯肉を観察し、チェックする。	<ul style="list-style-type: none"> 健康な歯肉の写真を見たり、自分の歯肉を観察させたりして、現在の健康状態に気付かせる。 		チェックポイント 健康な歯肉の写真 手鏡 ワークシート	
	4 補助的な清掃用具について話し合った後、デンタルフロスを使う。	<ul style="list-style-type: none"> 話合いを通して、補助的な清掃用具について考えさせる。 デンタルフロスを使用させ、汚れが落ちる実感をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ブラッシングだけでは、歯と歯の間の歯垢を落としきれていないことを伝える。 ポイントを提示しながら、正しいデンタルフロスの使い方を理解させる。 	歯の模型 デンタルフロス デンタルフロスに関する資料 ガーゼ	◎ 実践を通して、主体的に課題解決に取り組んでいる。 【主体的態度】 〈観察〉
	5 歯肉炎を予防するための正しい歯みがきの仕方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の歯や歯肉の状態に合わせた、正しい歯みがきの仕方を確認させる。 		歯みがきの手本動画	◎ 正しい歯みがきの仕方を理解している。 【知識・技能】 〈観察〉
終末 決める	6 自分に合った「歯肉炎予防大作戦」を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の課題やめあてをワークシートに記入させ、自分に合った具体的な作戦を立てさせる。 		ワークシート	◎ 自分の課題に合った具体的なめあてを決め、よりよい解決方法を意思決定している。 【思考・判断・表現】 〈ワークシート〉

4 実践の概要

(1) 課題意識をもたせる工夫

「歯みがき習慣に関するアンケート」の結果を提示し、「1日3回ポイントを意識しながら歯をみがいているし、特に困っていることもないからこのままでいいかな。」と児童に問いかけた。(資料1) その後、歯垢の動画を見せて衝撃を与え、その歯垢が原因である歯肉炎という病気に現在21名もがなりかけているという実態を知らせることで、このままではいけないから課題を解決したいという気持ちを高めることができた(資料2)。



【資料1】



【資料2】

(2) 課題解決に向けた活動の工夫

1つ目に、手鏡を使って自分の歯肉を観察させることで、現在の健康状態に気付かせたり、実際にデンタルフロスを使用させることで、汚れが落ちる実感をもたせたりと、児童が意欲的に学習に取り組めるように体験的な活動を取り入れた（資料3）（資料4）。

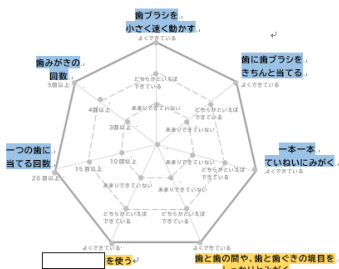


【資料3
自分の歯肉を
観察する児童】



【資料4
デンタルフロスを
使用する児童】

2つ目に、歯肉炎を予防するための正しい歯みがきを実践していくために、ワークシートにチャートを活用した。これまでの歯みがきの仕方を7つの項目で自己評価することで、自分の課題をすぐに把握することへとつながった（資料5）（資料6）。



【資料5
チャート】



【資料6
記入済みの
チャート】

5 成果 (○) と課題 (●)

- 事前のアンケート結果を提示したり、実際に自分の歯肉を観察したりすることで、歯肉炎を自分の問題として考えさせることができた（資料7）。
- 歯肉のセルフチェックやデンタルフロスの使用など体験的な活動を取り入れることで、体験を伴った深い理解ができるとともに、実践への意欲化が図られた。
- ワークシートにチャートを活用することで、歯みがきに関する自分の課題が可視化でき、これまでの自分を振り返ったり、これからのめあてを立てたりするのに有効であった。
- 学級担任と養護教諭との連携によって、歯に関する専門的な知識を織り交ぜた授業を行うことができた。
- 児童にどんなものかを知らせる活動が多くなってしまったため、児童自身が考える場をもう少し取れたらよかった。
- 授業を通して、歯肉炎の原因とその予防方法を理解し、実践に向けためあてを考えたことができたが、実践が継続した取組になるようにするための手立てが更に必要である。



【資料7 提示資料（板書）】

<第6学年の取組>

- 1 題材名 「歯周病予防大作戦」
学級活動(2)ーウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
- 2 ねらい 歯周病予防のための歯みがきの仕方を理解したり、生活習慣を見直したりして、自分の立てためあてを実践、習慣化しようとする。

3 展 開

	児童の活動	指導上の留意点	資料	◎目指す児童の姿 【観点】 〈評価方法〉
つかむ	1 アンケート結果や歯科衛生士の動画から自分の課題を知る。	<ul style="list-style-type: none"> 事前アンケート結果を提示したり、歯科衛生士の話を動画で見せたりして、自分の課題を捉えさせる。 既習事項である歯肉炎とのつながりから、歯周病という病気があることを知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前アンケートの結果 歯科衛生士が歯みがき巡回指導の感想を述べる動画 	
歯周病を予防するために、自分にできることはどんなことだろう。				
さぐる	2 歯周病の原因と健康への影響について考える。	<ul style="list-style-type: none"> 健康な歯肉と、歯周病になっている歯肉の写真をロイロノートで配布し、拡大しながら見られるようにする。 色や感触など、複数の項目を提示して、様々な視点で比べられるようにする。 歯周病の原因を考えさせた後、ゲストティーチャーから話を聞き、生活習慣を見直す必要があることに気付かせる。 生活習慣のどの点を見直すことができるか班で考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末 健康な歯肉と歯周病になっている歯肉の2つの写真 ゲストティーチャーの話 	
見つける	3 自分の課題を「グッバイ！歯周病チャート」にまとめ、できることを考える。	<ul style="list-style-type: none"> 子ども自身が歯みがきをしている動画と手本動画、歯みがき巡回指導の結果をロイロノートに送り、それらを基に自分の歯みがきの仕方や生活習慣を見直す。 見付けた改善点を表にまとめ、視覚的に理解させることで、めあてを決める際の手立てとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が歯みがきをしている動画 手本動画 	
決める	4 学習を振り返り、歯周病予防大作戦を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> 机間指導を行い、必要に応じて、自分に合った歯周病予防大作戦（めあて）を決められるよう助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート 	◎ 自分の歯みがきや生活習慣を見直し、実践できるめあてを考えている。【思・判・表】 〈観察・ワークシート〉

4 実践の概要

(1) 課題意識をもたせるための工夫

授業の導入で、事前アンケートの結果を見せた後、歯みがき巡回指導を行った歯科衛生士の感想を動画で見せた。巡回指導の際に指導していただいたことを思い出し、自身の課題を再確認できたとともに、課題解決に向けて意識を高めることができた。また、字幕を付けたり、要点をまとめたスライドを動画に挿入したりした



【資料1 歯科衛生士からの動画】

ことで、課題を整理して、次の活動につなげることができた（資料1）。

(2) 具体的な解決策をもたせるための工夫

歯周病が口腔内の健康に与える影響について考えるために、ロイロノートを活用して、歯周病に罹患した歯肉と健康な歯肉を比較する活動を設けた。写真を拡大しながら、視点に沿って考えをまとめさせたことで、歯周病の恐ろしさと「歯周病にかからないように何とかしたい。」という課題解決の必要性を高めることができた（資料2）。



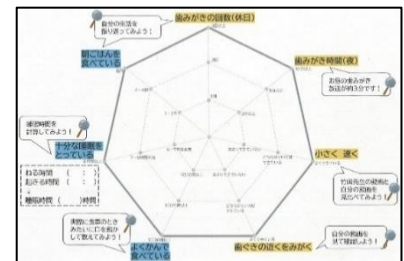
【資料2 ロイロノートの活用】

歯周病の原因について考える活動では、児童は歯みがきの回数や時間、仕方など「歯みがき」のみに注目していた。そこで、ゲストティーチャーの養護教諭から、基本的な生活習慣の確立も大切であるということを知らせたことで、児童の新たな気付きにつながり、「歯みがき」と「生活習慣」の2つの視点で課題解決をしていくことが大切であるということが理解できた（資料3）。



【資料3 ゲストティーチャーの活用】

そこで、活用したのが「グッバイ！歯周病チャート」である（資料4）。これまでの歯みがきの仕方や生活習慣を7つの項目で自己評価させた。正しい歯みがきの仕方と自分の歯みがきの仕方を動画で見比べ、できるだけ客観的に評価ができるようにした。項目ごとに表にまとめたものを、めあてを決める際に活用した。



【資料4 グッバイ！歯周病チャート】

(3) 実践につなげる工夫

めあてを決める際には、生活習慣病の一つである歯周病の予防について、「歯みがきのめあて」と「生活習慣のめあて」の2つの視点で考えさせた。5日間取り組ませた後、「グッバイ！歯周病チャート」に現段階での自身の取組を再評価させたことで、これまでの成果や課題について可視化でき、更なる実践意欲につなげることができた。

5 成果 (○) と課題 (●)

○ 「つかむ」「さぐる」「見つける」「決める」の掲示が分かりやすく、児童が見通しをもって活動に取り組むことができた（資料5）。



【資料5 掲示資料（板書）】

○ アンケート結果を提示したり、歯科衛生士からの話を動画で見せたりしたことで、一人ひとりが課題意識をしっかりと持ち、自分事として授業に臨むことができた。

○ 歯周病の原因として、歯みがきのみに着目してい

た児童にとって、ゲストティーチャーの話は、生活習慣が関係するという新たな気付きを与え、歯周病の起こり方について理解を深めるのに有効であった。

○ 「グッバイ！歯周病チャート」の活用は、児童の課題が可視化でき、これまでの自分を振り返ったり、今後のめあてを決めたりする際に効果的であった。

● 「グッバイ！歯周病チャート」の項目を児童自身に考えさせてみるのもおもしろい。また、めあ

てを決める際、歯みがきと生活習慣のどちらかにしか課題がない児童もいたので、歯みがきと生活習慣の2つの視点に限定しなくてもよかったのではないかなど、児童の実態に合った授業づくりを考えていく必要がある。

- 授業を通して、歯周病を予防するための歯みがきの仕方や生活習慣の確立の重要性をしっかりと考えることができたが、その意識を持続させていく手立てが更に必要である。

II 研究実践（環境づくり研究部）

1 保健委員会での取組

(1) 歯みがき啓発ビデオの作成

保健委員会の児童が出演し、歯みがきの必要性を訴える啓発ビデオを作成した（資料①）。寸劇の内容としては正しい歯みがきの仕方や、歯ブラシの選び方、むし歯となる原因や、ミュータンス菌が及ぼす健康被害についても盛り込み、継続して歯や口の健康づくりに取り組むことの大切さや難しさに気付くだけでなく、口の健康を守ろうという意識の向上にもつながった。また、最後にクイズを出題し、歯や口についての学習を楽しく振り返り、知識の共有化を図ることができた。



【資料①】 保健委員会による寸劇（テレビ放送）

(2) 歯ッピーインタビュー

歯みがき巡回指導において1学期と2学期の両方ともAAA判定となった児童へインタビューを行い、テレビ放送で紹介した。歯みがきの際に気を付けている点や、上手にみがくポイントなどを話



【資料②】 歯ッピーインタビュー（テレビ放送）

したり、今後の抱負について語りした。紹介された児童にとって

は、自信につながり、その他の児童にとっては、「自分も頑張ろう。」という意欲付けにつながることもできた（資料②）。

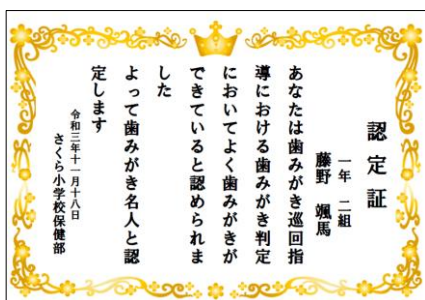
(3) 「歯と口の健康週間」昼放送

6月4日から10日までの「歯と口の健康週間」に合わせて、お昼の放送で、啓発のための放送を一週間連続で行った。「8020運動」や「ミュータンス菌」、「噛むこと」、「歯肉炎」について、それぞれの児童が分担し、紹介した。最後の日は、今までに紹介したことをクイズ形式で出題した。

(4) 歯みがき名人の賞揚

歯みがき判定でトリプルAだった児童には「歯みがき名人認定証」を渡し、学級で賞揚した（資料③）。認定証は「さくら歯ファイル」に保管している。3・5・6年生は1学期よりもかなり名人の数が増えた。学期に1回の歯みがき判定を今後も続けていき児童の歯みがきへの意識を高め

たいと思う。また、給食時の放送で児童保健委員会から「歯みがき名人」の名前を紹介した（資料④）。



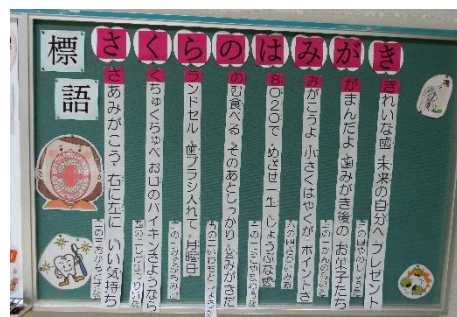
【資料③ 歯みがき名人認定証】



【資料④ 校内放送での名人の紹介】

(5) 歯みがき標語募集

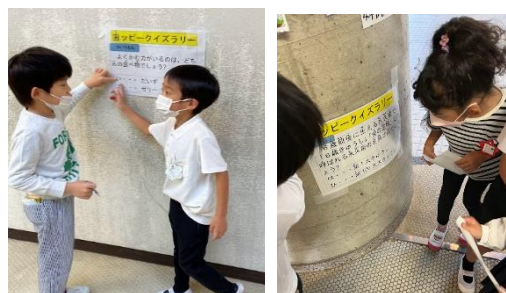
歯みがき標語の募集を行った。全校からたくさんの標語が集まり、保健委員会で優秀な標語を選出した。選ばれた標語は掲示したり、昼の放送で紹介したりした(資料⑤)。



【資料⑤ 歯みがき標語の募集箱と掲示】

(6) 歯ッピークイズラリー

10月には、「歯ッピークイズラリー」に取り組んだ。校内の至る所にクイズを掲示し、2択クイズに挑戦した。答えがそろると、「歯を大切に」という言葉になる仕掛けに、低学年の児童は喜んで取り組んだ（資料⑥）。



【資料⑥ 歯ッピークイズラリーに挑戦する児童】

2 掲示の工夫

(1) 歯みがき名人のグラフ化

歯科衛生士による歯みがき判定の結果、トリプルAの児童を「歯みがき名人」としている。学期ごとの各学年の歯みがき名人の人数をグラフ化して児童玄関に掲示している（資料⑦）。また、名人の名前や顔写真を掲示し、玄関を通る児童からよく見えるように掲示した（資料⑧）。登校したときや体育館へ行く途中に足を止めて掲示を見る児童の姿が見られ、自分も次はがんばりたいという歯みがきへの意欲が高まった。



【資料⑦ 歯みがき名人グラフ】



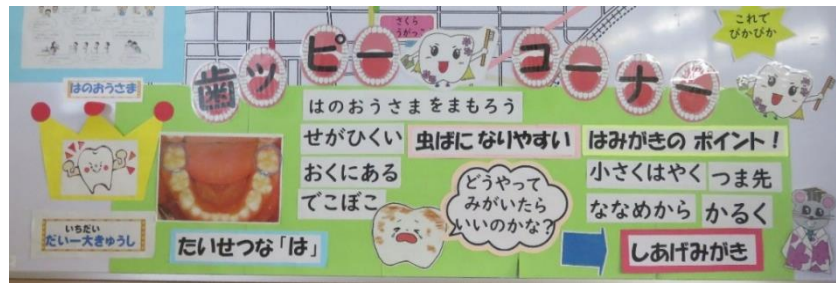
【資料⑧ 歯みがき名人の顔写真】

(2) 学年歯ッピーコーナーの設置

各学年部のフロアに「歯ッピーコーナー」を設置した。歯みがき巡回指導の様子や、歯みがきカレンダー、歯に関する授業の様子、歯みがき名人の紹介など、それぞれの学年が工夫して掲示した（資料⑨）。時期や発達段階、児童の状況に応じた掲示にすることで、児童の興味・関心を引くことができた。

1年生

1年生の歯ッピーコーナーでは、「はのおうさまをまもろう」で学習したことを掲示した。この時期に生えてくる第一大臼歯は、「歯のおうさま」と言われ、大切な歯であるのにも関わらず、とてもむし歯になりやすい歯である。その歯を守っていくための、歯みがきのポイントを掲示し、継続して取り組めるようにした。また、この時期は、仕上げみがきをしてもらうことが大事だと意識付けることができた。



2年生

2年生の歯ッピーコーナーでは、むし歯になりにくいおやつを分類して掲示した。普段、好んで食べているお菓子には、砂糖が多く含まれているため、むし歯になりやすいことが分かった。学習したことによって、むし歯にならないためには、おやつの種類だけではなく、回数や時間も大切であることが分かり、おやつの取り方に気を付けなければいけないという意識付けを図ることができた。



3年生

3年生の歯ッピーコーナーでは、学級活動で学習した内容が想起できるように掲示した。児童への歯みがきアンケート結果から、歯みがき判定ではAAA・AA・Aが多くいると予想された。しかし、B・Cが多く、みがき方がその原因としてあげられた。みがき残しに共通課題をもつ児童が集まり、今まで学習したことを振り返ったり、模型を使ってみがき残しがないみがき方を見付けたりしながら話し合った。その内容を書いたのが黄緑の部分である。歯のみがき方を改善し自分に合ったみがき方の大切さを共感することができた。



4年生

4年生の歯ッピーコーナーでは、授業の振り返りができるような掲示を行った。今の自分たちの状況を表したグラフの写真を掲示することで、自分たちの状況が振り返ることができるようにした。また授業の中で、キーワードとなった言葉を吹き出しにして掲示を行うことで、学習中の教師の発言も振り返ることができるようにした。4年生がよく通る場所に掲示を行ったことで、授業を行った時から時間が経っても、立ち止まり、掲示を見て振り返る姿が見られた。



5年生

5年部の歯ッピーコーナーでは、昨年度の授業実践の様子と正しい歯みがきの仕方の例示を掲示した。昨年度の実践を振り返るきっかけづくりをすることで、歯や口腔衛生に対する意識を高めることにつながった。また、正しい歯みがきの仕方の例示を詳しくしたものを紹介することで、自分の普段行っている歯みがきの仕方を振り返り、家庭でも実践していこうという意欲を向上させることにつながった。



6年生

6年生の歯ッピーコーナーでは、学級活動で歯周病について学習した時の様子や、1学期の歯みがき巡回指導の様子、夏休みに取り組んだ歯ッピーカレンダーなど、その都度、児童の実態や取組に応じて掲示した。2学期の歯みがき判定でAAAを取れるよう、児童への意欲付けを図ることができた。



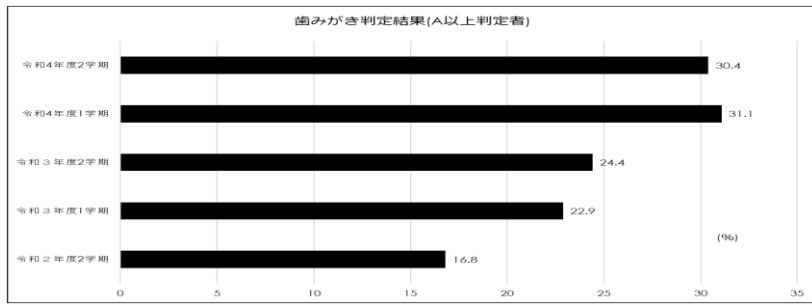
さくら

さくら組では昨年度の実践事例を歯ッピーコーナーに掲示し、カラーテスターをしたり、歯みがき指導を受けたりしたことについて話し合い、歯みがきの大切さについて再確認をした。家庭での取り組みに歯ッピーカードを用いたことで、どの児童も歯みがきに対する意識が高まり、1年生の中には、給食の終わりや家庭で歯みがきを熱心に行い、AAAを取る児童も現れた。



3 歯みがき判定結果

今年度は6月・10月・1月(予定)に松山市教育委員会・保健体育課の歯科衛生士・竹田美由紀先生に来校してもらい歯みがき判定を実施した。A以上の判定は、昨年度と比べると、飛躍的に増加している(資料⑩)。歯みがきのポイントを理解し、歯みがきに対する意識が向上したことが良い結果に結びついていると考える。一方で、竹田先生からは、歯ブラシの毛先が開いている児童が多いとの指摘があった。きれいにみがくためには、まず毛先が開いていないふつうの硬さの小さめの歯ブラシを選ぶことを児童保健委員会の放送で呼び掛けた。



【資料⑩ 歯みがき判定結果】

4 啓発活動

(1) 家庭への啓発「親子歯ッピーカレンダー」

夏休みや冬休みといった長期休みに「親子歯ッピーカレンダー」での実践を促している。カレンダーには、毎日「かむデー」や「しあげみがきデー」、「手洗いデー」などの目標を提示し、目標達成に合わせて色を付けることができる。子どもたちにとっては、小さな目標を設定したことで、取り組みやすいカレンダーとなっている（資料⑪）。



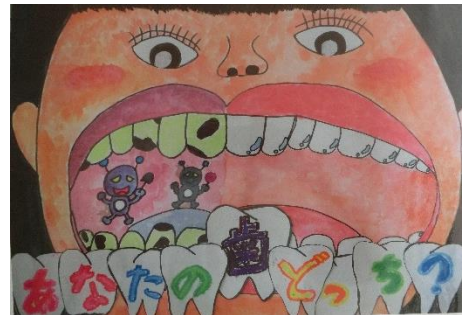
【資料⑪ 歯ッピーカレンダー】

(2) 掲示を活用した啓発「歯みがきポスター」

夏休みの課題として、歯に関する図画とポスターづくりに取り組んだ。応募作品の中から数点を選び、校舎内に掲示した（資料⑫）。たくさんの力作がそろい、「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」において、ポスターの部で第3位に入賞する児童もいた（資料⑬）。



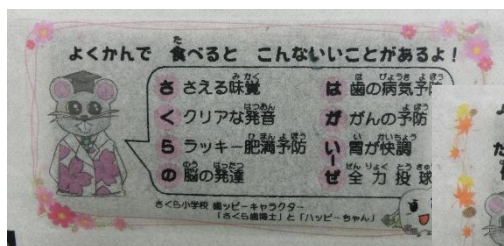
【資料⑫ ポスター掲示】



【資料⑬ 入賞作品】

(3) 給食指導での啓発

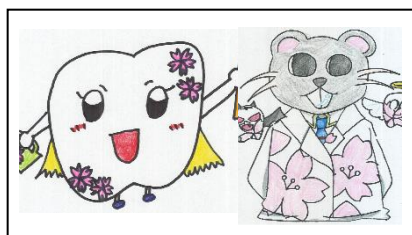
栄養教諭と連携し、学校給食として、さくら小学校の口腔キャラクターである「さくら歯博士」と「歯ッピーちゃん」がプリントされている味付けのりを提供した（資料⑭）。子どもたちは、自分の学校のキャラクターが載っている味付けのりを見て喜んだ。また、垣生調理場で提供されている他の学校の児童に知ってもらえることも喜んだ。



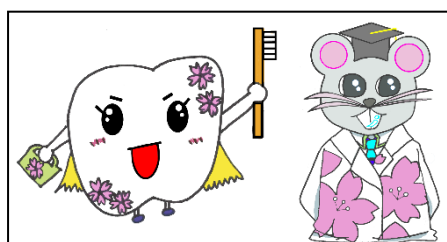
【資料⑭ 味付けのり】

(4) キャラクターでの啓発

初年度作成したキャラクターに、次年度は修正を加え、より見やすく親しみやすいデザインへと変更した（資料⑮）。校内の至る所に掲示し、啓発している。



Before



After



【資料⑮ 自校キャラクター】

(5) 図書コーナーでの啓発

図書購入の際に、歯・口の健康に関する本を数冊購入して頂いた。さらに、もともと図書室に置いていた本や、研究指定校に頂いた予算で購入した本などを一か所に集め、「歯ッピー図書コーナー」を設置した（資料⑯）。図書館入り口にコーナーを設置することで、思わず手に取って本を読んだり、借りたりする児童の姿が見られた。歯や口の中をきれいにしたり、健康を保つことの大切さを改めて認識することにつながっている。



【資料⑯ 図書館に設置した図書コーナー】

Ⅲ 研究のまとめ

調査・啓発研究部

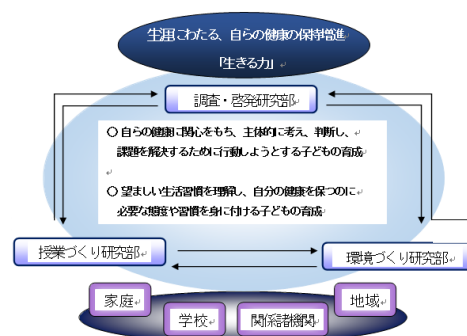
- 家庭・地域への啓発と、インタラクティブな関わり
- 学校保健委員会の充実と関係諸機関との連携
- 歯・口の健康に関する実態調査の実施と比較分析

授業づくり研究部

- 歯・口の健康に関する年間指導計画の見直しと実践
- 保健学習、保健指導に関する授業展開の研究

環境づくり研究部

- 委員会活動、集会活動の活性化、
- 掲示、放送による環境整備
- 健康ファイル等、健康教育資料の開発と蓄積



「松山市口腔内疾患対策研究モデル校」の指定を受け、3年間の研究調査を行ってきた。新型コロナウイルス感染症予防もあり、実践的な活動や、関係諸機関との連携が難しく、「できることを、できる範囲で」する3年間となった。しかし、全教職員が一丸となった工夫ある取組や、三部会を中心とした取組により、子どもや家庭の「歯・口の健康」に対する意識の高まりが見られ、研究主題である「自らの健康について主体的に考え、よりよく解決していこうとする子どもの育成」の達成につながる研究成果が見られた。

仮説 1

① 歯・口の健康づくりに関する実態を把握するとともに、② 家庭への啓発、③ 関係諸機関との効果的な連携を図れば、自らの健康について関心をもち、正しく理解していこうとする子どもが育つであろう。

調査・啓発研究部

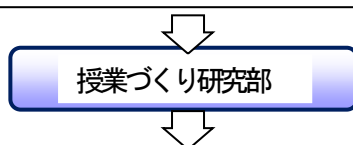
- ① 児童、保護者、教師へのアンケート調査による実態把握
 - 児童の「歯・口の健康」に対する知識が定着し、自らの健康への意識が高まってきていることが分かった。
 - 3年間の系統的な指導により、児童の歯みがきの技術が向上してきている。
 - 教師へのアンケート結果をフィードバックすることで、児童の実態に即した学習課題の設定やより効果的な指導方法の工夫をすることができた。
 - 家庭による格差が見られ、協力を得ることが難しい場面があった。引き続き、家庭との連携をしていく必要がある。
- ② 「歯・口の健康だより」の発行、「さくらっ子歯ッピーカード」の活用
 - 保護者とのインタラクティブなやりとりを意図した「歯・口の健康だより」により、保護者からの前向きな感想が寄せられるなど、関心の高まりと意識の変革が見られるようになった。
 - 「さくらっ子歯ッピーカード」により、歯みがきに対する児童の意欲や意識の高まりが見られた。また、保護者の健康に対する理解が深まり、児童への関わり方に良好な変容が見られた。

③ 関係諸機関との連携

- 保護者参加の学校保健委員会を開催し、学校歯科医や歯科衛生士による「歯・口の健康」に関する講話をいただくことで、保護者の健康に対する意識の高まりがみられた。また、事前に保護者から寄せられていた質問にも丁寧に答えていただくなど、充実した会を開催することができた。

仮説 2

歯・口の健康づくりに関する^①年間指導計画を基に、^②身に付けたい力を明確にした授業を展開すれば、正しい知識を得て、自らの健康課題を見付け、よりよく解決する方法を工夫・実践しようとする子どもが育つであろう。



① 年間指導計画（「歯みがきに関する指導」＋「食育に関する指導」）の見直しと実践

- 2年間の授業実践を踏まえ、各学年で取り組むべき内容を見直して授業研究を行った。これにより、子どもの実態に合った授業展開と、その後の実践につなげることができた。また、事前に、縦のつながりを意識した授業研究を行うことで、子どもの意識のつながりや学習内容の系統性を整えることができた。

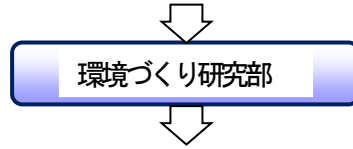
② 身に付けたい力を明確にした授業の展開（全校授業研による指導内容の共有）

- 養護教諭や歯科衛生士の専門性を生かした授業を展開することで、指導内容がより具体的になり、子どもの知識が深まった。
- タブレットを使って自分の歯（歯茎）を実際に見たり、歯みがきの様子を動画で撮影したりすることで、子どもが自分の課題をより明確に把握することができた。
- 授業内容に即した模型（手作り）の使用や、お菓子や砂糖などの実物の提示など、教材・教具の効果的な活用により、子どもの実感を伴った理解につながった。
- シンキングツールとしてロイロノートを有効活用することができた。
- クラスの子どもの実態に合った課題を提示することで、一人ひとりが課題意識をしっかりともち、自分の事として授業に臨むことができた。
- 話し合いの視点を明確にし、事前に確認しておくことで、子どものよりよい話し合いにつなげることができた。
- ワークシートの内容を見直し、チャート図などを取り入れることで、子どもが自分の課題を視覚的に捉え、より具体的な課題策を考えることにつながった。
- 授業を通して学んだことを実践につなげることはできたが、その意識を持続させていくための手立てを考える必要がある。また、そのための保護者への啓発についても工夫していく必要がある。
- めあてを達成している子どもへの新たな手立てや、実践への意欲付けを考えていく必要がある。
- 授業内容によって、タブレットを使うのか、ワークシートを使うのかといった思考ツールの選択をしていく必要がある。

仮説3

①

歯・口の健康づくりに関する環境の充実を図れば、自らの健康について主体的に考え、判断し、生涯にわたって自らの健康の保持増進をしていこうとする子どもが育つであろう。



① 歯・口の健康づくりに関する環境の充実

- 保健委員会を中心とした活動を活性化させることで、「歯・口の健康」に対する子どもの関心が高まった。
- 「歯みがき名人」を称揚したことで、子どもの意識が向上し、歯みがきの必要性について改めて考えるきっかけとなった。
- 「歯みがき名人グラフ」の提示、各学年や図書館の「歯っぴーコーナー」設置により、歯みがきの重要性を視覚的に捉えさせることができた。また、歯に関する知識を高めることにつながった。
- 「親子歯っぴーカレンダー」や夏休みの作品募集など、保護者を巻きこんだ活動を行ったことで、保護者の意識も高まり、よりよい啓発活動となった。
- 高学年になるほど個人差が大きくなるので、今後も家庭と連携しながら継続した活動を行い、主体的に考え、判断し、改善していこうとする子どもを育てていく必要がある。
- 子どもに縦のつながりや、学習内容の蓄積を感じさせるためには、系統性をもった学年掲示をしていく必要がある。





令和2・3・4年度 研究同人

【令和4年度】

福岡 靖二	竹本 英貴	大奈路 睦	高岡 美和子	藤原 利子
面田 龍夫	小田 由起子	上岡 誉知	泉 恵子	高橋 ゆう子
玉井 香織	竹内 隆子	児島 加恵	久保田 千鶴子	豆塚 加代子
田中 奈保子	日野 昭子	井野元 順子	是澤 雅代	池内 真希
松岡 真理子	中下 裕文	田村 幸一	上田 真生	水口 直人
田窪 輝	清家 孝太郎	片山 幹太	橋掛 香々桜	宮岡 華
寺原 ひいな	神野 浩恵	小池 ゆかり	山地 真人	宮植 美恵
一色 雄大	菅崎 法子	佐々木 直美	中島 涼太	高須 淳子
花岡 幸代				

【令和3年度】

入江 宏	金光 敦子	永井 久美子	宮内 義和	東 伸美
橋本 裕子	今城 真理	上田 真未	海田 佑希子	日野 亜寿美
河野 優太	塩見 靖彦	来嶋 理恵	松田 深咲	大奈路 美保
田中 ひとみ	玉井 葉子			

【令和2年度】

近藤 哲也	滝田 寿之	難波 学	中塚 広樹	神野 未希
渡部 典子	渡部 美咲	渡部 明宏	津田 恵里香	大原 悠
今村 幹江	花山 圭子			